

2009

学校法人
金沢医科大学
平成 21 年度事業報告書

平成 21 年度 事業報告書

(平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日)



金沢医科大学
2010.5.31

平成21年度 事業報告にあたって

金沢医科大学は、「1. 良医を育てる」「2. 知識と技術をきわめる」「3. 社会に貢献する」という建学の精神をかかげて、1972年に金沢近郊の内灘の地に開学しました。本年6月1日には満38年が経過し、あと2年で開学40周年を迎えることになります。この間、多くの方々からの支えと教職員をはじめ関係者の並々ならぬ努力によって金沢医科大学の今日を迎えることができました。本学は医療を介して社会に貢献していますが、これまでに本学を巣立った医師の数は3,000名を超え、また2,000名に近い看護師を社会に送り出してきております。そしてそれぞれ国内外で活躍され、社会に対して種々の貢献がなされております。

今、日本の医療は病んでおり、かなり重篤な状態と認識しなければなりません。全国的な医師不足、看護師不足はその症状の一つであり、医療のインフラは砂漠化しようとしている気配さえあります。その影響は本学にとっても厳しい逆風となっておりますが、それが平成20年9月に突然はじまった世界の経済・金融の低迷によって大学経営に更なる悪影響を及ぼしております。

平成21年度は、そのような条件の下で、次の世代を支える医師を育成する機関として、引き続き必要な人材の受け入れ、無駄を避け、必要な設備の充実、高度先進機器・高額機器などの最低限の更新、本学の将来に向かったのグランドデザインの策定などを計画的に行ってきました。その結果、全体の収支差額はわずかながら支出超過となりましたが、人件費が増加し帰属収入比は47.7%ときびしい結果となりました。この難局を乗り切るためには、今後とも収支バランスを考慮しつつ経営改善への努力が必要と考えております。

本学が多くのの方々からの期待に応えることができ、社会から高い評価を得る大学をめざして、さらなる発展を期して教職員とともに力を合わせて努力して行きたいと考えておりますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。

学校法人 金沢医科大学 理事長 山下 公一

目 次

平成21年度事業報告にあたって	1
I 法人の概要	
1. 建学の精神	4
2. 教育目標	4
3. 学校法人の所在地	5
4. 沿革	5
5. 組織	6
6. 役員・評議員・教職員数	7
7. 設置する大学・学部・学科等の名称及び定員等	9
8. 附属研究所及び病院	9
9. 設置する大学・学部・学科長等	9
10. 志願者・入学者の状況	10
11. 医師国家試験合格状況	10
12. 学位授与状況	10
13. 学生数の推移	10
14. 外部資金の獲得状況	11
15. 国際交流	11
16. 大学病院の稼働実績に関する資料	13
II 事業の進捗状況	
1. 法人部門	
1) 金沢医科大学グランドデザイン第1次5ヶ年計画	15
2) 北陸大学薬学部薬学実務実習生受け入れ準備工事	15
3) 特別高圧受電設備の更新	15
4) 病児保育室設置	15
5) その他の環境整備	15
6) 寄附行為の一部改訂	15
7) 平成21年度における看護師確保対策の取組みについて	16
8) 医学部医学科定員の増員	16
9) 組織の一部改正	16

2. 大学部門	
1) 教育研究の活性化	18
2) 看護学部整備計画の実施	19
3) 研究用機器の整備	20
4) 図書館の電子化（電子ジャーナル導入）	20
5) 総合医学研究所開設20周年記念事業	20
6) 文部科学省の大学教育改革支援プログラム	20
3. 病院部門	
1) 患者サービスの向上	21
2) 医療安全の確保	21
3) 医療の高度化と質の向上	22
4) 地域連携・地域貢献	23
5) 教育研修	23
6) 人材確保と就業環境の改善（看護師募集活動）	24
7) 医療機器等の整備	24
8) 施設設備整備	25
9) 収支改善	25
10) 組織運営	27
11) 平成21年度経営管理指標の達成状況	27
4. 金沢医科大学氷見市民病院	
1) 診療実績の状況	28
2) 診療体制の整備	28
3) 医療経費の削減	31
4) 経営管理体制の強化	31
5) 新病院建設	31
6) 医療機器整備	32
7) 経営指針	33
8) 氷見市民病院教職員数	34

Ⅲ 財務の概要

1. 平成21年度決算の概要	35
2. 最近5ケ年の財務状況	42
3. 平成21年度金沢医科大学氷見市民病院決算の概要	47

I 法人の概要

1. 建学の精神

◇良医を育てる

倫理に徹した人間性豊かな良医を育成する

◇知識と技術をきわめる

医学の深奥をきわめ優れた医療技術を開拓する

◇社会に貢献する

生命の尊厳を基調とし人類社会の医療と福祉に貢献する



2. 教育目標

〔医学部〕

医学部の教育の基本目標は、建学の精神に述べている「人間性豊かな良医の育成」にある。

「良医」とは、「常に患者の立場に立って考え、個々の患者に最も適した医療を提供できる、そして、それを可能とする知識と技術に精通した医師」である。医学部の6年間の卒前一貫教育、それに続く卒後初期臨床研修、専門医研修、そして大学院においては、まず医師としての人間形成を基本においたうえで、知的好奇心を育み、問題に立脚した解決能力を磨き、急速に進歩する医学に対応して生涯にわたって自己研修を行って未来を開拓していくことができる能力を獲得することを常に基本目標におき、良医育成のためのカリキュラムを展開している。

〔看護学部〕

看護学部の教育目標は、社会的ニーズに対応できる豊かな人間性と確かな理論・技術を備えることを基本とし、保健・福祉・医療の専門職者と協働してケアするチーム医療の調整者とし

での役割を果たしていくために必要な基本的能力を身につけた看護専門職者の育成にある。

また、複雑、多様化する社会状況の中で、未知の課題に対して幅広い視野からの確かな判断ができる問題解決能力、さらに生涯にわたって専門性を深める自己開発能力を育成する。

看護学部では、これら専門的な能力を備えた看護専門職者の育成を目指したカリキュラムを展開している。

3. 学校法人の所在地

石川県河北郡内灘町字大学1丁目1番地（〒920-0293）

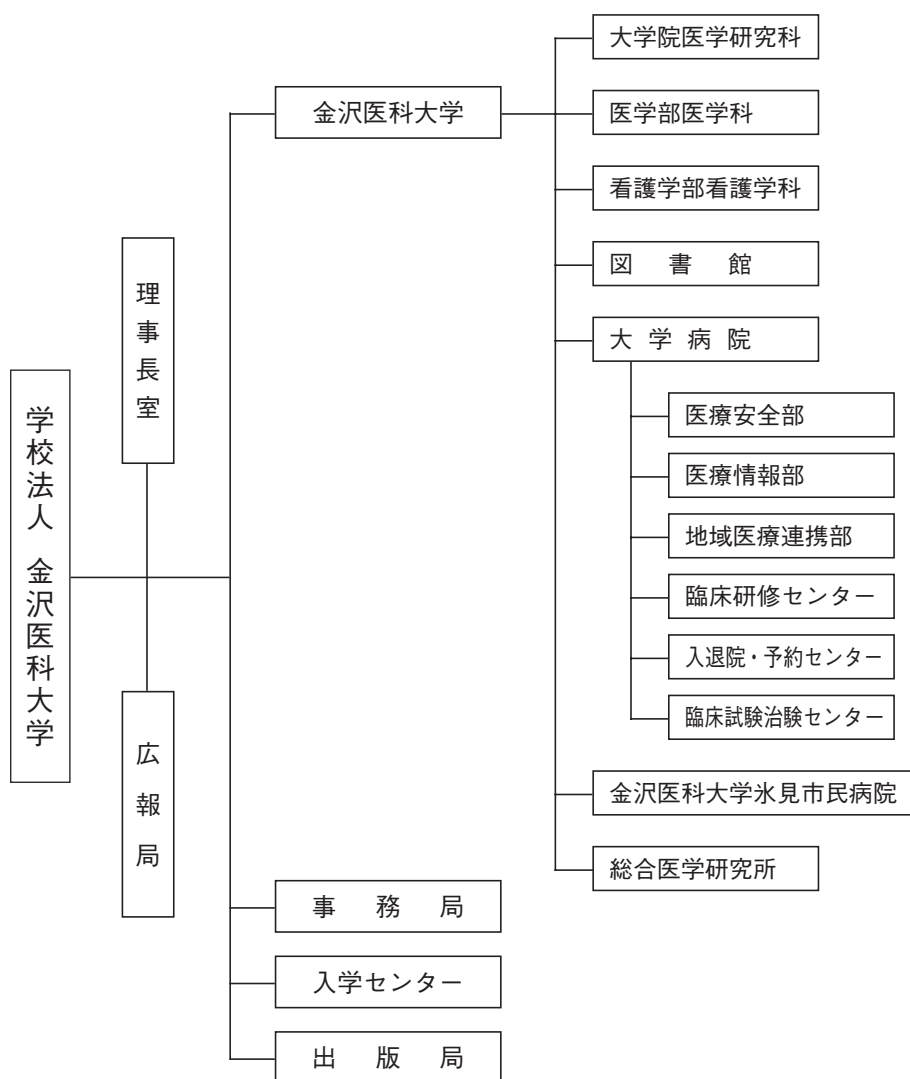
4. 沿革

昭和47年 3月30日	学校法人金沢医科大学認可
6月 1日	金沢医科大学開学
昭和48年 4月 1日	金沢医科大学附属看護学校開校
昭和49年 9月 1日	金沢医科大学病院開院
昭和50年 7月 1日	金沢医科大学歯学研究所開設
昭和57年 4月 1日	大学院医学研究科設置
昭和58年 4月 1日	熱帯医学研究所開設 人類遺伝学研究所開設
昭和62年 2月10日	金沢医科大学病院別館稼働
3月31日	金沢医科大学歯学研究所廃止
昭和63年 4月 1日	金沢医科大学附属看護学校が附属看護専門学校に昇格
平成元年 4月 1日	総合医学研究所開設 (人類遺伝学研究所、熱帯医学研究所、共同研究室を統合)
平成6年 3月24日	厚生省から特定機能病院に承認
平成12年10月 1日	電子カルテ全科実施
平成15年 4月 1日	財団法人大学基準協会「正会員」加盟・登録承認 大学院医学研究科生命医科学専攻開設
8月31日	病院新館竣工
平成16年 4月 1日	医学部講座組織の改組
平成17年 3月 1日	21世紀集学的医療センター設置
平成19年 1月22日	病院機能評価バージョン5認定
4月 1日	金沢医科大学看護学部開設
11月21日	氷見市民病院指定管理者に決定
平成20年 3月11日	財団法人大学基準協会大学基準適合認定
4月 1日	指定管理者制度による金沢医科大学氷見市民病院 開設（私立学校法第26条の収益事業）
平成21年 3月31日	金沢医科大学附属看護専門学校 廃校

5. 組 織

金沢医科大学 組織図

(平成21年4月1日現在)



6. 役員・評議員・教職員数

役員・評議員・教職員の概要は次のとおり。

(平成21年5月1日現在)

【役員】

理 事	理 事 長	山下 公一	
	副理事長	竹越 襄	(氷見市民病院最高経営責任者)
	副理事長	松本 忠美	(教育診療・総務担当)
	理 事	山田 裕一	(学長)
	理 事	飯塚 秀明	(病院長)
	理 事	高島 茂樹	(氷見市民病院長)
	理 事	小田島肅夫	
	理 事	宮村 栄一	
	理 事	勝田 省吾	
	理 事	篠原 治道	
	理 事	伊藤 博	
	理 事	奥名 洋明	
	理 事	澁谷 亮治	
	理 事	久藤 豊治	
	理 事	飛田 秀一	
	理 事	荒田 満	
	理 事	中農 理博	
	理 事	中山 正喜	
	理 事	木村 晴夫	
	理 事	大野木辰也	
	理 事	吉田 勝明	

以上 理事 21名

監 事	水株 正紀	中村 行男	米沢 寛
-----	-------	-------	------

以上 監事 3名

【評議員】

山下 公一	山田 裕一	飯塚 秀明	高島 茂樹
奥名 洋明	小田島肅夫	勝田 省吾	久藤 豊治
篠原 治道	澁谷 亮治	飛田 秀一	宮村 栄一
荒田 満	大野木辰也	木越 俊和	木村 晴夫
小平 俊行	島 智一	中川 秀昭	中農 理博
中山 正喜	古居 滋	宮本 孝子	宮本 文夫
伊藤 透	大島 譲二	大山 充徳	緒方 盛道
角田 弘一	斉藤 人志	吉田 勝明	伊藤 博
大原 義朗	川上 重彦	鈴木 孝治	鈴木 宗幸
竹越 襄	土田 英昭	梶 博久	姫野 洋一
松井 忍	松本 浩平	松本 忠美	八十出泰成
横山 隆昭	横山 仁		以上 評議員 46名

【教職員数合計】

(平成 21 年 5 月 1 日現在 単位：人)

年 度	教員数		職員数		医員・臨床研修医		計	
	男	女	男	女	男	女	男	女
平成 19 年度 (計)	297	84	265	1,023	61	35	623	1,142
	381		1,288		96		1,765	
平成 20 年度 (計)	277	94	272	1,055	60	40	609	1,189
	371		1,327		100		1,798	
平成 21 年度 (計)	292	93	286	1,105	58	39	636	1,237
	385		1,391		97		1,873	

医学部教員数内訳

年 度	教 授		准教授		講 師		助 教		助手・研究医(員)		計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
平成 19 年度 (計)	65	5	46	4	46	5	122	41	12	3	291	58
	70		50		51		163		15		349	
平成 20 年度 (計)	59	7	46	2	40	6	116	44	10	6	271	65
	66		48		46		160		16		336	
平成 21 年度 (計)	68	6	42	4	43	5	123	46	10	6	286	67
	74		46		48		169		16		353	

看護学部教員数内訳

年 度	教 授		准教授		講 師		助 教		助手・研究医(員)		計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
平成 19 年度 (計)	4	7	2	3	0	1	0	2	0	6	6	19
	11		5		1		2		6		25	
平成 20 年度 (計)	4	6	2	4	0	1	0	5	0	5	6	21
	10		6		1		5		5		27	
平成 21 年度 (計)	3	6	3	4	0	4	0	11	0	1	6	26
	9		7		4		11		1		32	

看護専門学校教員数内訳

年 度	専任教員		計	
	男	女	男	女
平成 19 年度 (計)	0	7	0	7
	7		7	
平成 20 年度 (計)	0	8	0	8
	8		8	

医員・臨床研修医数内訳

年 度	医 員		臨床研修医		計	
	男	女	男	女	男	女
平成 19 年度 (計)	36	21	25	14	61	35
	57		39		96	
平成 20 年度 (計)	34	23	26	17	60	40
	57		43		100	
平成 21 年度 (計)	31	22	27	17	58	39
	53		44		97	

職員数内訳

年 度	事務系		技術技能系		医療系		教務系		その他		計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
平成 19 年度 (計)	88	111	36	7	125	670	2	22	14	213	265	1,023
	199		43		795		24		227		1,288	
平成 20 年度 (計)	85	122	37	9	134	682	3	21	13	221	272	1,055
	207		46		816		24		234		1,327	
平成 21 年度 (計)	85	124	45	15	136	737	3	17	17	212	286	1,105
	209		60		873		20		229		1,391	

※技術技能系…技術職員・技能職員
※教務系…研究補助員等

※医療系…看護職員及び医療技術系職員
※その他…臨時・パート・補助員等

7. 設置する大学・学部・学科等の名称及び定員等

平成21年度において、本法人が設置する学校・学部・学科等は下記のとおり。

平成21年5月1日現在

(単位：人)

学 校 名		入学定員	収容定員	現 員	摘要
金沢医科大学	大学院医学研究科	35	140	84	
	医学部医学科	110	610	659	
	看護学部看護学科	60 3年次への編入 10	190	192	※
合 計		215	940	935	

※平成19年4月1日開設

8. 附属研究所及び病院

名 称	所 在 地
金沢医科大学総合医学研究所	石川県河北郡内灘町字大学1丁目1番地 (〒920-0293)
金沢医科大学病院	石川県河北郡内灘町字大学1丁目1番地 (〒920-0293)
金沢医科大学氷見市民病院	富山県氷見市幸町31番9号 (〒935-8531)

※金沢医科大学氷見市民病院は私立学校法第26条の収益事業。設置者は富山県氷見市。

9. 設置する大学・学部・学科長等

(平成21年5月1日現在)

金沢医科大学	学 長	山田 裕一
医学部医学科	医学部長	大原 義朗
看護学部看護学科	看護学部長	伊川 廣道
大学院医学研究科	研究科長	野島 孝之
一般教育機構	機構長	松田 博男
学生部	部長	芝本 利重
図書館	館長	牧野田 知
総合医学研究所	所長	伊達 孝保
医学教育センター	センター長	佐久間 勉

10. 志願者・入学者の状況

1) 医学部

年 度	一 般						推 薦※			A O		
	志願者 (人)	入学者 (人)	倍率 (倍)※	入学者内訳			志願者 (人)	入学者 (人)	倍率 (倍)※	志願者 (人)	入学者 (人)	倍率 (倍)※
				現役	一浪	その他						
平成 20 年度	2,235	62	36.04	3	13	46	88	21	4.19	137	11	12.45
平成 21 年度※	2,268	69	32.86	2	19	48	93	25	3.72	173	10	17.30
平成 22 年度	1,981	70	28.30	9	15	46	76	24	3.16	120	11	10.90

※平成 21 年度から入学定員 110 名。※平成 21 年度の推薦には指定校制推薦を含む。

平成 22 年度の推薦には指定校・指定地域推薦を含む。*倍率＝志願者 ÷ 入学者

※編入学（第 1 学年次後期編入）は除く。

2) 看護学部

①一般・推薦

年 度	一 般						推 薦		
	志願者 (人)	入学者 (人)	倍率 (倍)※	入学者内訳			志願者 (人)	入学者 (人)	倍率 (倍)※
				現役	一浪	その他			
平成 20 年度	184	44	4.18	35	6	3	21	19	1.10
平成 21 年度	138	40	3.45	40	0	0	27	20	1.35
平成 22 年度	139	44	3.15	40	4	0	23	22	1.04

※倍率＝志願者 ÷ 入学者

②編入学

年 度	志願者 (人)	入学者 (人)	倍率 (倍)※	入学者内訳			最終学歴	
				現役	一浪	社会人	短期大学	専門学校
平成 20 年度	—	—	—	—	—	—	—	—
平成 21 年度	9	6	1.50	3	0	3	0	6
平成 22 年度	3	1	3.00	1	0	0	0	1

※倍率＝志願者 ÷ 入学者

11. 医師国家試験合格状況

年（回）	新卒者のみ	既卒者込	全国平均
平成 20 年（第 102 回）	89.8 %	83.5 %	90.6 %
平成 21 年（第 103 回）	81.2 %	78.3 %	91.0 %
平成 22 年（第 104 回）	81.1 %	77.9 %	89.2 %

12. 学位授与状況

研究科	学 位	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度
医学研究科	博士（課程）	9	7	16
	博士（論文）	4	3	2
計		13	10	18

13. 学生数の推移

学校名	学部・研究科・学科	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度
金沢医科大学	医学部	659	654	659
	看護学部	64	126	192
	医学研究科	64	66	84
計		787	846	935

14. 外部資金の獲得状況

(円)

	医学部	看護学部	総合医学研究所	合 計
科学研究費補助金	77,510,000	9,360,000	5,330,000	92,200,000
政府もしくは政府関連法人からの研究助成金	77,267,150	－	42,780,000	120,047,150
民間の研究助成団体等からの研究助成金	12,200,000	1,336,000	－	13,536,000
研究助成金（奨学寄付金）	238,950,000	－	24,900,000	263,850,000
受託研究費	11,081,000	－	26,160,000	37,241,000
共同研究費	4,600,000	－	－	4,600,000
その他（研究関連収入）	8,225,780	－	3,000,000	11,225,780
総 額	429,833,930	10,696,000	102,170,000	542,699,930

15. 国際交流

1) 交流協定校等の拡大

平成 21 年度、下記の新規 3 機関を加え、協定締結機関が 11 となった。

国 名	協定締結機関名	協定締結日
アメリカ	カリフォルニア・ソノマ州立大学	平成 21 年 8 月 4 日
パラオ共和国	パラオ共和国保健省	平成 21 年 4 月 1 日
ロシア	ヤロスラブリ医科大学	平成 21 年 12 月 1 日

2) 交換留学（医学部学生）

国 名	大学名	派 遣	受け入れ
アメリカ	ハワイ大学	0	0
	マーサ大学	－	－
	バーモント大学	2 ※	3
	テキサス A&M 大学	3	－
	合 計	5	3

※新型インフルエンザ感染防止のため春期医学研修後期プログラムおよび夏期医学研修プログラム派遣中止
－実施しなかった。

3) 語学研修の派遣（医学部・看護学部学生）

国 名	大学名	学 部	派 遣	備 考
アメリカ	ハワイ大学	医学部・看護学部	0	新型インフルエンザ感染 防止のため中止
	ソノマ大学	医学部・看護学部	0	

4) 姉妹校・協定校からの留学生・短期研究員の受入れ

国 名	大学名	留学生（大学院）	短期研究員
中 国	中国医科大学	3	2
	華中科技大学同済医学院	3	4
	中日友好病院	2	1
ベトナム	ベトナム軍医大学	1	1

5) 海外訪問

国 名	大学名	訪問者	内 容	年月日
ロ シ ア	ヤロスラブリ医科大学	山下公一理事長 他 2 名	協定書調印	平成 21 年 11 月 28 日～ 12 月 4 日

6) 海外からの訪問者の受け入れ

国 名	所属機関名	訪問者	内 容	年月日
ベトナム	ベトナム環境省 ベトナム軍医大学	ベトナム環境省副部長 ベトナム軍医大学 103 病院 副病院長 他 4 名	交流協議 健康増進予防医学(公衆衛生学)との共同研究打ち合わせ、施設見学	平成 21 年 5 月 26 日
ベトナム	ベトナム軍医大学	ベトナム軍医大学副学長 ベトナム軍医大 103 病院 病院長 他 5 名	交流協議 健康増進予防医学(公衆衛生学)との共同研究打ち合わせ、施設見学	平成 21 年 6 月 17 日
中 国	大連大学	附属中山病院教員 2 名	病理学研修	平成 21 年 8 月 25 日
台 湾	中山医科大学	教員 1 名、学生 4 名	感覚機能病態学(眼科学)研修	平成 21 年 11 月 30 日 ～ 12 月 1 日
インドネシア	インドネシア大学	学長以下 11 名	大学・病院施設見学	平成 22 年 1 月 19 日
アメリカ	バーモント大学	医学部教員 1 名	卒業式出席	平成 22 年 3 月 3 日 ～ 5 日

7) 国際交流センター事業

平成 21 年度、新規事業として研究・発表の支援を計画し、下記の 2 事業を開始した。

①「第 1 回講演会とワークショップ」

テーマ： 国際会議におけるプレゼンテーションの基本

—技術をさらに磨きたい方・これからデビューする方のために—

講 演： Giving Good Presentations in English

講 師： 岡崎 真雄 先生（東京慈恵会医科大学医学部准教授）

日 時： 平成 21 年 11 月 5 日（木）16：30～18：00

②「英文校正サービス」

サービス内容： ①英文校正（抄録、学会発表用原稿、カバーレター等）

②英語発表のモデル録音

校正担当者： 一般教育機構（英語）、Steve Burke 講師

16. 大学病院の稼働実績に関する資料

1) 平成 21 年度経営管理指標の達成状況

		平成 21 年度目標	平成 21 年度実績	目標達成度	平成 20 年度
平均在院日数	一 般	18.5 日以内	18.4 日	-0.1 日 (達 成)	18.9 日
	全 体	19.5 日以内	19.0 日	-0.5 日 (達 成)	19.6 日
新入院患者数／日		34.5 人以上	34.6 人	0.1 人 (達 成)	33.6 人
入院患者数		710 人以上	691.7 人	-18.3 人 (未達成)	691.9 人
病床稼働率		85%以上	84.0%	-1.0% (未達成)	81.3 %
外来患者数		1,140 人以上	1,127.9 人	-12.1 人 (未達成)	1,122.7 人
新患患者数／日		30.0 人以上	28.9 人	-1.1 人 (未達成)	28.3 人
患者紹介率		60%以上	56.7%	-3.3% (未達成)	57.6 %
院外処方率		75%以上	79.4%	4.4% (達 成)	73.6 %

2) 患者数関連指標の過去 5 年間の推移状況

年 度	病 床 数 (床)		患 者 数 (人 /1 日平均)				平均在院日数 (日)
	許可	稼働	外来患者数	新患患者数	在院患者数	新入院患者数	
平成 17 年度	938	879	1,219.0	31.2	726.7	32.8	22.1
平成 18 年度	938	890	1,137.7	31.6	698.9	33.0	21.2
平成 19 年度	932	884	1,148.6	32.1	681.8	33.8	20.1
平成 20 年度	892	840	1,122.7	28.3	658.3	33.6	19.6
平成 21 年度	835	823	1,127.9	28.9	657.1	34.6	19.0

3) 診療実績関連指標の過去 5 年間の推移状況

年 度	診 療 実 績				
	入院収入 (百万円)	外来収入 (百万円)	合 計 (百万円)	入院単価 (円)	外来単価 (円)
平成 17 年度	12,650	4,044	16,694	45,629	11,362
平成 18 年度	12,896	3,825	16,721	48,270	11,514
平成 19 年度	12,908	4,085	16,993	49,276	12,180
平成 20 年度	12,830	4,185	17,015	50,801	12,808
平成 21 年度	13,043	4,479	17,522	51,662	13,646

4) 大型機器の利用実績

	平成 21 年度実績	平成 20 年度実績	対前年度増減	当初計画／年
放射線治療システム Varian	472 人	425 人	47 人	288 人
PET-CT システム	1,629 人	1,211 人	418 人	1,440 人
FDP 搭載型 X 線 TV 装置	2,860 件	2,240 件	620 件	1,928 件
密封小線源治療装置	28 件	35 件	-7 件	30 件
X 線 CT 装置 (64 列)	15,622 件	14,678 件	944 件	9,984 件
IVR-CT アンギオシステム	1,440 件	365 件	1,075 件	545 件
心血管撮影装置 AXIOM	2,567 件	798 件	1,769 件	900 件
MRI 装置 MAGNETOM3.0T	6,920 件	1,161 件	5,759 件	3,485 件
MRI 装置 MAGNETOM1.5T	4,358 件	-	4,358 件	3,700 件

5) 手術実績

診療科名	平成 21 年度	平成 20 年度	増 減
形成外科	632	660	－ 28
小児外科	293	334	－ 41
胸部心臓血管外科	277	283	－ 6
脳神経外科	224	233	－ 9
泌尿器科	241	232	+9
耳鼻咽喉科	286	210	+76
一般・消化器外科	646	596	+50
整形外科	921	977	－ 56
産科婦人科	207	189	+18
眼科	1,757	1,693	+64
呼吸器外科	95	92	+3
歯科口腔科	20	24	－ 4
麻酔科	42	22	+20
血液・リウマチ膠原病科	5	7	－ 2
救命救急科	1	0	+1
皮膚科	9	9	0
消化器内科	4	0	+4
腎臓内科	0	2	－ 2
神経科精神科	8	8	0
内視鏡科	14	13	+1
合 計	5,682	5,584	+98
うち全麻件数	3,140	3,005	+135
全麻率	55.3%	53.8%	+1.5 ポイント

Ⅱ 事業の進捗状況

1. 法人部門

1) 金沢医科大学グランドデザイン第1次5ヶ年計画

グランドデザイン第1次5ヶ年計画の前段階工事となる新アナトミーセンターの建設工事計画を立案、決定した。また、新アナトミーセンター竣工後、旧アナトミーセンター、旧CT室・RI棟を解体し、病院アネックス3号館（仮称）、医学教育棟3号館（仮称）を建設して、現在病院本館で展開している諸機能を移転する計画、さらに、病院本館を解体し、エントランス棟を建設するグランドデザイン第1次計画の概要を立案した。



新アナトミーセンター完成予想図

2) 北陸大学薬学部薬学実務実習生受け入れ準備工事

平成22年5月から本院にて北陸大学薬学部生の実務実習が開始されるため、その受け入れのための環境整備工事を行った。病院本館2階を一部改修し、セミナー室、講師控室及び更衣室を設置した。

3) 特別高圧受電設備の更新（平成20年からの3ヶ年事業）

第1期は平成20年度に22kV特別高圧受電盤を更新する計画であったが、設備は受注生産のため、年度繰り越しとなり、平成21年度は第2期工事の高圧設備更新と併せて実施した。

4) 病児保育室設置

病児保育室は内灘町からの強い要望もあり、病院第2新館の玄関横駐輪スペースを改修し新設した。

5) その他の環境整備

平成21年度は特に、電気空調設備等の改修、省エネ事業、施設設備の老朽化に伴う各種の整備を行った。また、地上デジタル放送対策、看護学部3、4号棟の一部改修も行った。

6) 寄附行為の一部改訂

文部科学省に金沢医科大学附属看護専門学校の廃止のための寄附行為変更認可申請を

行い、平成21年6月26日付けで認可された。

7) 平成21年度における看護師確保対策の取組みについて

a. キャリア形成支援

専門看護師・認定看護師の資格取得のための費用の一部を予算化し、平成21年度は同予算を利用して1名が認定看護師の資格を取得した。本院には現在、専門看護師2名、認定看護師10名、計12名が在職している。

b. 病院内外の施設によるメンタルヘルスケアの充実

看護師を中心とする病院職員の悩み相談窓口である「ひまわりルーム」の相談員を増員するとともに、外部の相談サービス施設と委託契約することで、多岐にわたる相談に対応できる体制を整備した。

c. 分娩手当の新設（平成21年7月1日から）

本院において、産科医の不足により看護職員の業務負担が増加している現状から、助産師の処遇改善の一策として、分娩取扱件数に応じて支給する手当（分娩1回につき、5,000円）を新設した。

d. 看護職員紹介報奨制度の新設（平成21年10月13日から）

看護職員の採用促進の一策として、本院が求める適任人材を紹介してくれた職員に対し報奨金を支給する制度（1紹介につき、50,000円）を新設した。平成21年度は1件の実績があった。

e. 看護職員を対象とする短時間勤務制度の試行実施（平成21年12月1日から）

家庭の事情等により、これまでの勤務体制では就業の継続が困難になった看護師に対し、勤務時間を短縮する制度を試行的に実施した。

雇用形態を多様化することにより、有能な人材を確保できるとともに、家庭にいる潜在看護師等の再就職につながることを期待できる。現在5名の看護師がこの制度を利用している。

f. 病児保育室「すまいる」の開設（平成22年3月1日から）

育児と仕事の両立を支援する観点から、子育て中の看護職員が安心して働ける職場環境整備の一環として、子どもが病気で一般の保育施設等に預けられない場合に、院内で保育・看護する病児保育室を開設した。定員6名に対し、1日平均1名～2名が利用している。

8) 医学部医学科定員の増員

平成21年4月1日改正の金沢医科大学学則より、定員が100名から110名に増員された。

9) 組織の一部改正

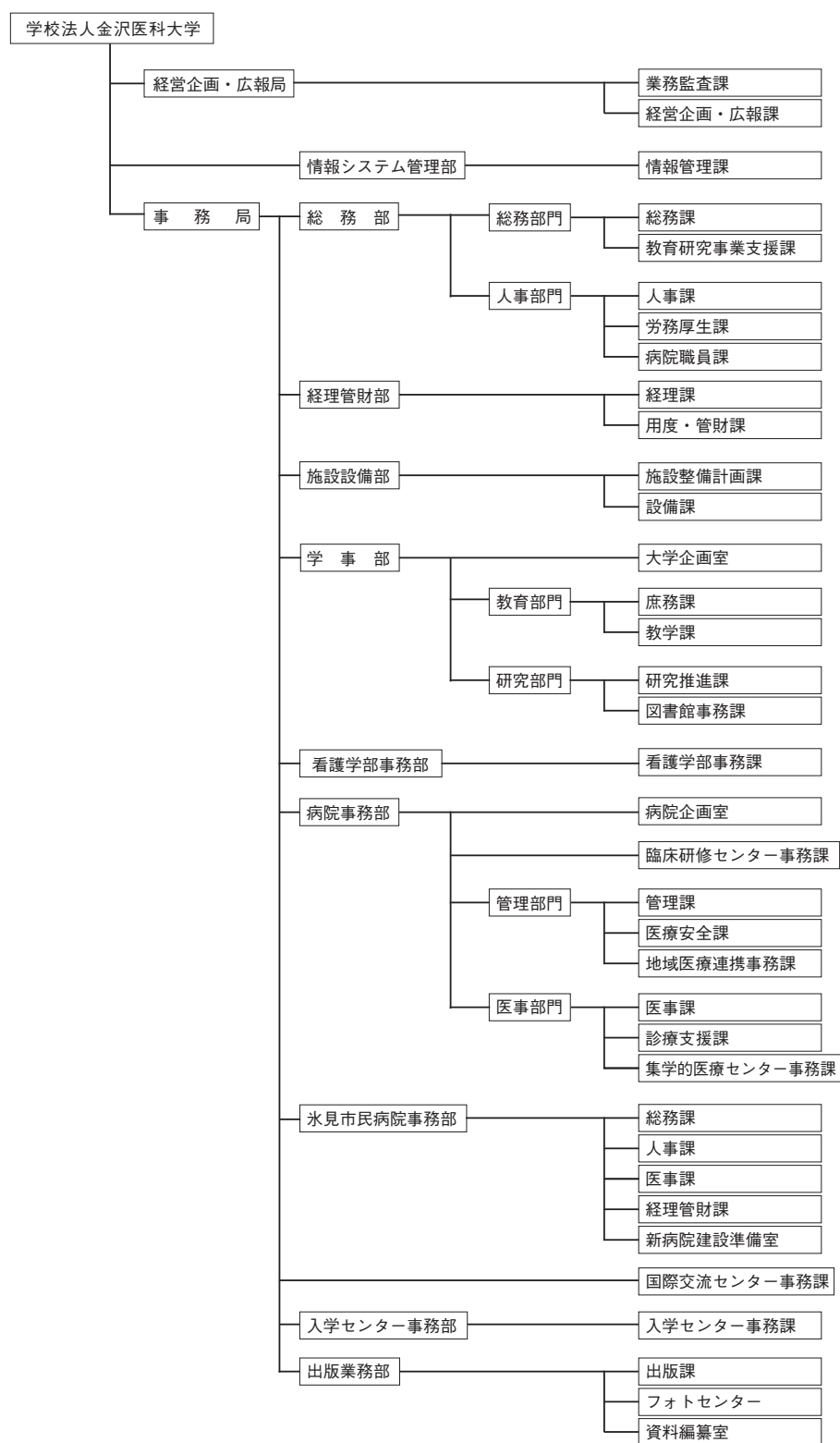
平成21年6月10日付けで事務組織の一部改正を行った。

改正の趣旨は、以下のとおりである。

- ① 担当業務と指揮系統の明確化および人事・労務管理面の充実
- ② 部・課等の統合・新設による担当者の負担減及び人的交流による業務の効率化
- ③ 大学全体の業務監査機能の強化及び学事・病院における経営分析、業務改善及び機能評価等の担当部署の設置

事務組織図

(平成 21 年 6 月 10 日現在)



2. 大学部門

1) 教育研究の活性化

a. 入学志願者の確保

〔医学部〕

志願者数3,000名以上を目指し、試験場の増設、特別奨学資金貸与枠の拡大等により募集活動を展開した。しかし、過去3年間にわたる全国医学部入学定員枠増（7,625名→8,846名）の影響により、今年度の志願者数は昨年度の2,534名から357名減の2,177名となった。

また編入学（第1学年次後期編入）試験の受験資格の規準を拡大したことにより、志願者数は61名、入学者は6名であった。なお、特別奨学金貸与制度では5名が入学した。

〔看護学部〕

推薦入試は、昨年度から募集定員を30名から20名に変更したことにより、平成22年度の志願者数は23名となり募集定員を超えた。（過去2年定員割れ）

一般入試は、富山大学の定員増により富山県からの志願者数が半減したものの、石川県内からの志願者数増などにより昨年度より1名増の139名となった。

編入学（第3学年次編入）試験は、関係施設を積極的に訪問したが、募集定員10名に対し3名が出願、1名が入学した。

b. 医学教育の充実

「教育の金沢医科大学」を実践し最良の医学教育を学生に提供するために、カリキュラムの一部改正を行うなど、教育課程や教育方法の改善に努めるとともに、学生の学習環境の充実を図った。

・クリニカル・シミュレーション・センターの開設

医学教育の強化を図るためにクリニカル・シミュレーション・センター（CSC）を開設した。CSCでは医学教育に必要な各種シミュレータを整備し、学生の医療技術教育だけでなく、研修医、看護師の新規採用後の医療技術講習会、復職や再学習のための個別利用、そのほかチーム医療など、多職種の複合トレーニングの場として多くの人たちが利用している。



クリニカル・シミュレーション・センターの利用風景 電子カルテ実習室

- ・試験管理システムの構築

定期試験問題などの集積や成績分析を効率的に行うために、試験管理システムの構築に着手した。平成22年度までに問題管理など一連のシステムの完成を目指す。

- ・講義室の整備

基礎研究棟の講義室（D 31・D 41・D 51講義室）の機器や装置の更新、臨床研究棟のM30実習室の機能強化、学生食堂棟トイレ改修など、教育環境の整備を行った。

- ・医師国家試験対策

医師国家試験合格率のアップを目指し、教務委員会を柱として強化教育プログラムを推進した。また、医学教育センターを中心に臨床教育担当教員制度を設けて、第6学年全体の成績の底上げを図った。

c. 研究の活性化

- ・大学院の活性化と院生の確保

昼夜開講制導入による社会人入学生（医員、臨床研修医）の確保、優秀な外国人留学生の受け入れなど、定員充足に向けて積極的に取り組んだが、定員充足率の増加には至らなかった。

- ・科学研究費等外部資金の獲得

優れた教員の採用、研究推進会議の活用などに精力的に取り組むことにより、科学研究費補助金等の外部助成金の獲得に努めた。また、研究支援システムを見直し、科学研究費の経理管理システムを新たに構築し運営されている。

- ・産学官連携の推進

平成20年度に構築した産学官連携体制を基盤として、学外機関（企業、大学、自治体等）との連携を強化し、「知的財産セミナー」などを開催し啓発活動を推進した。また、子供たちに対する「ひらめき☆ときめきサイエンス ようこそ大学の研究室へ」を開催するなど、社会還元活動を昨年度に引き続き実施した。

d. 国際交流の推進

- ・海外教育交流及び業務の拡大

今年度は、従来の中国の3医療機関、アメリカの3大学に加えて、テキサスA&M大学、カリフォルニア・ソノマ州立大学との学生の医学研修を行った。また、ロシアのヤロスラブリ医科大学、ベトナムの軍医大学との協定書調印に基づく学術交流を積極的に行った。

その他、外国人講師による、教職員や学生を対象にした英会話セミナーの開催、教員の英文論文の校正サービスなども行っている。

2) 看護学部整備計画の実施

a. 教育の充実

看護学部の整備計画の一環として、平成21年度は以下の事業を行った。

- ① 教育の強化と評価の適正化
- ② 助産師選択履修者選考試験の実施
- ③ 旧看護専門学校校舎の改修・活用促進

④ 臨地実習体制の充実・整備

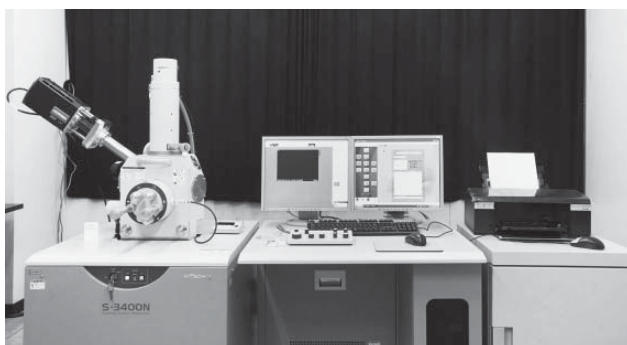
b. 管理運営

特に、以下の2点について、積極的に推進した。

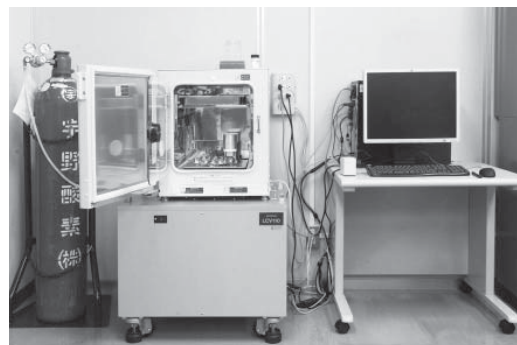
- ① 学生奨学金制度の見直し
- ② 学生支援後援会「保護者会」の設立

3) 研究用機器の整備

総合医学研究所の共同利用機器として、「走査電子顕微鏡」、「インキュベータ蛍光顕微鏡」を整備し、臨床と直結した研究支援体制の強化を図った。



走査電子顕微鏡



インキュベータ蛍光顕微鏡

4) 図書館の電子化（電子ジャーナル導入）

全国的に図書の電子化が進む中、本学は平成18年度から電子ジャーナルを導入し、平成21年度には3,500タイトルを電子化した。

また、平成21年度から、本学教職員であれば、本学が契約しているデータベース、電子ジャーナル等が学内だけでなく、自宅などどこからでも利用できるサービスを開始したことにより、利用者数は日増しに増加している。

5) 総合医学研究所開設20周年記念事業

平成元年度に開設された総合医学研究所は、平成21年度に20周年を迎えた。その記念事業として記念式典を開催し、記念誌を発行した。

6) 文部科学省の大学教育改革支援プログラム

a. 大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム

平成20年度に採択された「金沢医科大学と金沢工業大学による教育研究協力を通じた有機的な医工連携事業」について、平成21年度は次の各事業を行った。

- ① 「医工連携教育・研究プロジェクト」を発足
- ② 「医工連携研究会・分科会」の開催
- ③ ナレッジシステムの運用開始
- ④ FD・SD研修会の開催
- ⑤ 医工連携フォーラム・タウンミーティングの開催

b. がんプロフェッショナル養成プログラム

平成19年度に採択された北陸の5大学による「北陸がんプロフェッショナル養成プラン」について、平成21年度は、履修科目等を充実させ、受講生の増加を図った。また、e-learning教育の推進、がんサージカル症例検討会を積極的に開催するなど本事業の運営が円滑に行われた。

3. 病院部門

1) 患者サービスの向上

a. 接遇研修会の開催

患者サービス及び接遇対応の意識と技法の向上を目的とした接遇研修会は毎年継続的に開催されており、今年度は2月に開催され、医師18名、看護師202名、コメディカル48名、事務職員146名ほか合計441名の参加があった。

b. 外来診察待ち時間の短縮

採血・検尿の待ち時間については平均10分以内、心電図は平均20分以内、X線は平均10分以内、会計窓口は平均5分以内を目標として、患者さんの待ち時間の短縮に努めた。

c. 患者満足度調査の継続的实施

外来患者、入院患者を対象に満足度調査を行い、その結果を診療科や病棟などへフィードバックし、業務の改善に資するよう努めている。また、平成21年度からは調査結果と改善結果について院内に掲示しホームページにも公表している。

d. フロアサービスの推進

正面出入り口で、看護師長やサポーターが中心となり、患者さんの受診相談や院内の案内、誘導、サポートなどを積極的に行い、患者サービスの向上に努めた。また、紹介患者専用カウンターを設置し、優先診療や当該診療科への案内も行っている。

2) 医療安全の確保

a. インシデント・医療事故報告システム

システム稼働3年目を迎え、平成21年度は3,647件（前年度比623件増）のインシデント報告、30件（前年度比7件減）の医療事故報告があった。

その中の代表的な事例について医療安全対策委員会で報告され、これに基づき、医療安全対策小委員会において、インシデントについて、23事例で改善策及び事故防止策の周知が図られた。

b. 患者誤認防止システム

注射処方誤認防止システムは、平成21年4月から一部の病棟で試験稼働が開始され、平成22年1月からは全病棟で稼働している。

また、処方、輸血に関しては準備が整い次第稼働する予定である。

c. 感染対策の強化、充実

従前の感染対策室は、平成21年4月に医療安全部の感染制御部門として組織替えされ

た。スタッフも、これまでの専従感染管理看護師（ICN）に加えて、感染管理医師（ICD）が配置された。

その結果、新型インフルエンザへの的確な対応をはじめ各種コンサルティングが積極的に行われ、感染対策体制が充実された。

院内感染対策委員会では管理体制の強化として、感染症対策マニュアル（指針、感染経路別予防策など）を一部改訂し、抗菌薬適正使用の促進、院内ラウンドでの指導、感染情報の提供、手洗い講習会、職員教育としての教育講演会を開催するなど積極的な推進を図った。

d. 注射薬調剤業務の一元化

注射薬調剤業務は、平成22年3月にICUとハートセンターを除く全病棟に拡大し、薬剤部内で調製する中央システムへと変更した。ただし、時間外については院内4ヶ所にクリーンベンチを設置し、各ステーションで無菌的調製を実施している。

3) 医療の高度化と質の向上

a. 医療安全管理体制の強化推進

診療管理基準、医療安全対策マニュアル、感染症対策マニュアル、災害対策マニュアルを院内各部署に常備し、公的機関の指導や現場の診療方針、ガイドラインの変更等にあわせて、随時内容の一部を改訂した。

また、医療相談や暴力行為（モンスター・ペイシェント）に対応するため、経験豊富な専門知識を有した人材を登用し、保安体制の強化を図った。

b. 地域がん診療連携拠点病院としての機能強化

がん診療連携拠点病院の要件は、集学的医療のための人材育成研修、院内がん登録、がん相談支援センター設置によるがん相談、緩和ケアチームによる診療支援活動であり、前年度に引き続き、拠点病院としての要件の整備を行い、機能強化に向けて積極的な取り組みを行った。

c. 集中治療室等の施設基準、高度先進医療への取り組み

- ① 脳卒中ケアユニット入院管理加算の申請は、看護師補充状況を勘案して、平成21年度も継続して検討を行った。
- ② 既存の先進医療の中から、「胎児心超音波検査」（小児科）及び「多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術」（眼科）の実施に向けて、厚生労働省への申請準備及び院内治験を開始した。
- ③ 新生児特定集中管理料（NICU）の申請については、当該施設設備工事と看護師配置の具体的な検討を行った。

d. クリニカルパスの拡充

本院のクリニカルパスの保有件数は、平成21年度は155件となり、ほぼ全診療科で保有、実施されるようになった。院内パス大会は平成21年度は1回だけの開催であったが、概ね医療の効率化と患者負担の軽減、在院日数短縮などEBMの概念に基づいた医療の標

準化が浸透しつつあると評価できる。

また、患者紹介・逆紹介の病診・病病連携を病院運営の最重要課題と位置づけており、白内障疾患の地域連携パスについては、複数の医療機関との間で実施している。

4) 地域連携・地域貢献

a. 紹介・逆紹介患者数の状況

平成21年度の新患・初診の紹介患者数は8,767人（前年度8,565人）であり再診紹介患者を含めると11,748人（前年度11,565人）であった。前年度より、新患・初診は202人増加し、再診は19人減少した。紹介患者全体では183人の増加となった。

b. 地域保健医療活動

① 石川県予防医学協会や成人病予防センターが実施する地域住民検診へ継続的に医師を派遣し、その他、学校検診へも専門医を派遣した。

② 21世紀集学的医療センターにおいて、患者向けに毎月2回生活習慣病の予防対策を目的とした運動教室を開催し、毎回30名前後の住民が参加した。

また、一般者向けの「健康づくりセミナー」として、内灘町、金沢市、病院内などでメタボリック症候群や栄養と内臓脂肪、タバコと健康をテーマに開催し、各々35名が参加した。

③ 医療従事者向けに遺伝子医療、緩和医療、性差医療、がん治療における心の問題などをテーマに、病院内で集学的医療セミナーを3回開催し、毎回約60名の参加があった。

c. 遠隔医療システム・地域医療連携システムの稼働

公立穴水総合病院・地域診療所と連携し、本学病院からのテレコンサル（透析管理支援、がん相談・化学療法支援）による協力体制が構築され稼働している。

また、遠隔診療支援が開催されたことに伴い、診療活動の質を向上させるために、両院の看護部が交流研修を開始し、高度がん医療及び透析医療に関する勉強会を定期的に開催している。

5) 教育研修

a. 臨床研修プログラムの策定と研修医募集活動

平成22年度臨床研修プログラムを検討すると共に、平成20年度研修プログラム（研修医23名）及び平成21年度研修プログラム（研修医19名）の円滑な実施に努めた。

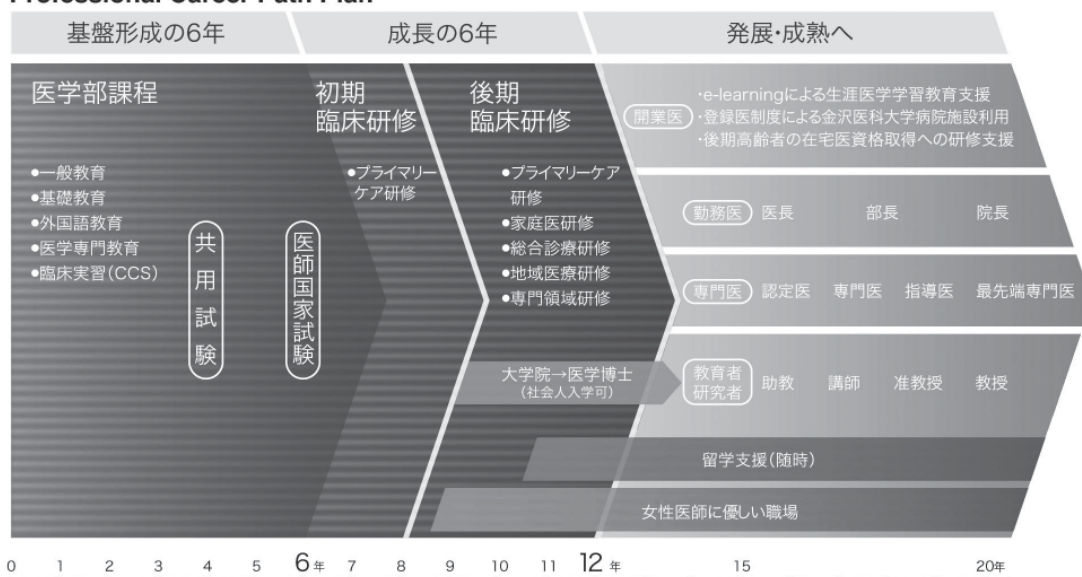
また、平成22年度から実施予定の臨床研修プログラムの、一般コース（定員44名）、産科婦人科コース（定員2名）、小児科コース（定員2名）を厚生労働省に申請し受理された。

そのほか、研修医募集のための院内説明会の開催や、院外におけるセミナーや説明会にも積極的に参加し本院のブースを展示し広く募集活動を行った。

b. 臨床研修指導医の養成

臨床研修指導医養成のために、「能登いこいの村」においてワークショップを開催し、平成21年度は38名（うち協力病院8名）の指導医を養成した。

プロフェッショナル・キャリアパス・プラン Professional Career Path Plan



6) 人材確保と就業環境の改善（看護師募集活動）

看護体制の確立のため、以下のように積極的な人材確保活動を行った。

- ① 北陸3県を中心に看護学校訪問（5月、10月）を行ったほか、東京、大阪、金沢での合同説明会へ参加した。
- ② 就職情報サイトへの登録を行い看護師確保に努めた。
- ③ 応募者の都合に合わせて院内説明会を随時開催した。
- ④ 看護師離職者防止対策として平成21年度も引き続き魅力ある職場づくりを推進し、教育体制の充実、資格取得への経済的支援、就業支援など看護業務の改善に取り組み、看護師業務の効率化を図った。
- ⑤ 看護師募集パンフレット、看護部ホームページなどを刷新して看護師のイメージ向上対策に積極的に取り組んだ。

7) 医療機器等の整備

a. 大型放射線機器の整備

平成21年度は、X線CT装置（新機種はDual-source CT）1台を更新した。

b. その他の医療機器整備

更新機器39件、追加機器20件、新規機器7件の整備を行った。

c. 情報システムの整備

情報システムの整備として、医師の業務負担軽減のための診断書作成支援システムを新規導入、電子カルテ情報基盤整備などの病院情報システム（HIS）と栄養システムを更新したほか、看護支援システム、医療安全対策推進システムを拡充した。

d. 機器設備予算の病院長ヒアリングによる節減対策

大型の高額機器の導入は特定機能病院として高度な医療レベルを保持するために必要不可欠であるが、経済的効果をより重視するため、機器の選定にあたっては、病院長が申請部署責任者と綿密なヒアリングを行った。また、大型医療機器に係る保守料について、その契約内容の見直しを行い経費の節減を行った。



X線CT装置（Dual-source CT）

8) 施設設備整備

a. 病児保育室の設置

地域への貢献という本院の理念から、門戸を地域に開放するとともに教職員の就業支援ならびに子育て支援を目的に、特に女性医師や看護師の定着化・新規確保の一方策とするため、病院第2新館北側玄関横に病児保育室を設置した。

特に、感染性の病児の保育を行うにあたっては、安全性重視の仕様とした。

b. 北陸大学薬学部実務実習受け入れのための施設整備

北陸大学薬学部実務実習の受け入れに係るセミナー室等の施設整備については、平成22年5月からの実習開始に合わせ平成21年度に着工した。本館2階にセミナー室1室、講師控室及び更衣室3室を整備する。

9) 収支改善

a. 看護師配置7:1の通年確保及び特定集中治療室管理加算等

特定機能病院基本料（看護師配置7:1）は、入院患者数の大幅な変動もなく、通年で確保することができた。しかし、ハートセンターを対象とした特定集中治療室管理料は、看護師不足から8床運用となっているが、専従の医師がいないという問題が継続課題となっている。

脳卒中ケアユニット入院医療管理料ならびに新生児特定集中管理料（NICU）の申請は、当該施設設備工事と看護師配置の問題があることから翌期以降の検討課題とした。

b. 患者誘致対策

PET-CT、リニアック、小線源治療装置等の大型機器の導入により、大型機器の利用

状況は、年間実績で概ね前年度より増加している。新たに導入した最先端の大型機器については、積極的に広報し対象患者の誘致を図っていくことにしているが、特にPET-CTや新規導入のCTについては人間ドックの検査項目を充実させて、新規ドック利用者の獲得を図っていく。

また、3台のMRI装置と新規導入した1台を含めた3台のCT等の大型機器の効率的な運用を図り、診療実績の増加に繋げていく。

なお、平成22年度はフルデジタル乳房撮影装置の更新が計画されており、患者獲得ならびに診療実績の増加を図ることとしている。

c. 21世紀集学的医療センターの充実（健康管理センター、生活習慣病専門外来など）
〔健康管理センター〕

リニューアルされた別館7・8階を人間ドックの拠点に、新健診システムの開発導入、宿泊ドック用個室の増床、医療スタッフの確保、給食の外部委託などソフト及びハード面での充実を図った。

〔生活習慣病専門外来など〕

メタボ外来、禁煙外来、肥満外来、女性外来（平成21年度から女性総合医療センターを設置）、遺伝子医療センターなど特色ある専門外来における更なる質的充実のため、関連診療科との連携強化を図った。



リニューアルされた健康管理センター（別館7階）



生活習慣病専門外来（本館2階）

d. DPC分析を活用し、クリニカルパスの改良による医療の標準化、効率化

DPC分析は、私立医大協会ベンチマークによる他院とのデータ比較が開始され既に実用段階に入ったため、他大学病院との分類疾患ごとの相対的経費比較が可能となり、経営分析上の参考資料としている。

e. ジェネリック薬品の選択的採用拡大と診療材料の標準化

ジェネリック薬品の使用については、かねてより薬事委員会を中心にその選択的採用の検討を進めてきたが、平成22年4月から一部採用することを決定した。また、診療材料については、医療安全、感染対策、コスト削減の観点から業務改善委員会で規格統一による標準化を進めた。

f. 収支改善に向けた病院長ヒアリングの実施

病院長と各診療科長、医局長とのヒアリングを昨年度に引き続き実施した。ヒアリン

グでは、各診療科から今年度の状況報告や診療科の事情、平成22年度の数値目標、診療実績の向上にむけた協議を行った。

10) 組織運営

a. 医療技術部の設置

平成21年4月に医療技術職員を一元的に組織して効率的かつ適切な人員配置を行い、診療上必要とする各種医療技術の提供を円滑に行っていくことを目的に、「医療技術部」が設置された。

組織運営にあたっては、医療技術部運営委員会を組織し、関連部署間の連携を図るとともに、研修会を開催したりワークショップの企画などを行った。

b. 病院機能の自己点検、評価

病院機能評価の受審に際し達成された改善レベルを維持しながら、未達成の事項については引き続き改善に努めた。

このため、病院として機能評価の視点から、不断の点検・評価を継続する体制を維持し、各部門ならびに各委員会において院内の各種ルールや業務運用の見直し、関連資料の整理等を推進し、更なる業務レベルの向上と効率化などの改善を進めた。

11) 平成21年度経営管理指標の達成状況

平成21年度の数値目標に対しては、新入院患者の増加、平均在院日数の短縮、院外処方率の向上については達成できたが、その他の項目については未達成となった。

前年度実績との比較では新入院患者数は増加したが、平均在院日数が短縮されたため、延べ入院患者数は減少（－99人）となった。

新型インフルエンザの影響で新患患者数、外来患者数は微増となった。

4. 金沢医科大学氷見市民病院

1) 診療実績の状況

a. 医療収入

氷見市民病院は平成21年7月からDPC対象病院となった。

医療収入は、前年度より0.9%の増加となった。当初目標である40億2千5百万円は、前年度に在籍していた消化器内科常勤医師2名が退職したことにより達成できなかったが、他診療科医師の努力により、前年度を上回る実績となった。

入院・外来別でみると、入院の医療収入は、前年度より9千3百万円（+4.2%）の増加となった。外来の医療収入は、前年度より5千7百万円（-3.4%）の減少となった。

b. 患者数

入院の1日平均患者数は153人となり、前年度より5人減少したものの、9月以降は増加し、下半期だけでみると平均163人となった。特に2月は175人と過去最高の入院患者数となった。

外来の1日平均患者数は506人となり、前年度より14人増加した。7月までは前年度を下回っていたが8月以降は増加し、下半期の平均は519人となった。特に1月は573人と過去最高の外来患者数となった。

c. 診療単価

入院診療単価は40,310円となり、前年度より2,865円増加した。

一方、外来診療単価は、院外処方箋発行率の増加（54.5%→67.3%）により伸び悩み、11,191円となり、前年度より733円減少した。

d. 平均在院日数

平均在院日数は、17.6日となり、前年度の19.2日より1.6日短縮した。短縮した要因は、DPCを踏まえた退院調整が各診療科で積極的に行われたことである。

2) 診療体制の整備

a. 常勤医師の確保

常勤医師は33名となり、前年度より1名の増加となった。このうち研修医は3名となり前年度より1名の増加となった。診療科別では、内科医師は1名増員となり10名体制となった。また、これまで常勤医師がいなかった皮膚科、産婦人科にそれぞれ1名の常勤医師が配置された。

年 度	常勤医師数	研修医（内数）
平成21年度	33	(3)
平成20年度	32	(2)
平成19年度	34	(2)
平成18年度	38	(5)
平成17年度	40	(3)

b. 看護師の確保

平成21年度末の看護師数は172名（パート15名含む）であり、前年度末より13名（パート5名含む）の増員となった。また、看護業務を支援するために、看護補助者を10名増員し26名体制とした。

若手看護師の離職防止を目的として、20歳代の若手看護師で構成する「りんごステーション」を立ち上げた。同世代の看護師によるサークル活動的な夕食懇談会やリクリエーション活動を通じて、日頃の問題点や課題を共有し職場環境の改善に繋げている。

c. 重症室の整備

がん疾患及び循環器系2床、脳神経系4床の重症室を整備した。これにより、がんや心臓手術、脳外科手術など、術後重症患者の受け入れ体制が整備された。

なお、心臓手術については、ICUでの術後管理が不可欠となるが、この場合、看護単位の看護配置が必要となるため、今年度は施設基準の取得はできなかった。当面は病棟組み込みの重症室での管理とした。今後、看護師が充足した時点でICUの届出を行う。

d. 病診連携の推進

ソーシャルワーカー1名を追加採用し2名体制とし、病診連携体制を強化した。紹介率については19.4%となり、ほぼ前年度並みにとどまった。

また、高岡医療圏の病診連携を推進するため、平成21年12月5日（土）に氷見水産センターにおいて「第2回地域医療懇談会」を開催した。出席者は63名（関連医療機関25名、院内38名）となった。

そのほか、氷見市医師会との診療連携を図るため、インフルエンザ等の汎流行時の診療協力体制について市医師会と診療協力契約を締結した（平成22年3月1日付）。

e. 救急医療体制（時間外）の強化と現状

内科と外科の複数医師による時間外救急体制を維持するため、金沢医科大学OBの開業医師ら4名の協力を得た。この4名の医師が日直及び準夜帯の救急担当に加わったことにより、当院医師の日・当直業務の負担が軽減し、複数医師体制による救急体制を維持することができた。

時間外の救急患者の受け入れは、患者延数は5,931人となり、前年度の6,005人より74人（－1.2%）減少した。一方、救急車による受け入れ患者数は704人となり、前年度の635人より69人（＋10.9%）増加した。

また、入院患者数は648人となり、前年度の574人より74人増加（＋12.9%）した。入院率は10.9%となり、前年度より1.3ポイント増加した。全体としては、軽症患者の時

救急患者の受け入れ状況（時間外）

年 度	救急患者延数	1 日 当 り	うち救急車 搬送患者数	1 日 当 り	うち入院患者数	入院率
平成 21 年度	5,931 人	16.2 人	704 人	1.9 人	648 人	10.9 %
平成 20 年度	6,005 人	16.5 人	635 人	1.7 人	574 人	9.6 %

間外受診は若干減少し、救急車を含む重症患者の受け入れは増加傾向にある。

当院ではこれまで市の広報誌等を通じ、時間外は重症患者を最優先する旨を住民に伝え、軽症者には日中の受診をお願いしてきた。今後も地域と協力して救急車の受け入れ体制を強化する。

f. 手術実績

平成21年度の手術件数は、1,193件で前年度より39件増加した。このうち全麻件数は416件で前年度より23件減少した（全麻率は34.9%）。診療科別では、消化器外科、脳神経外科、眼科の手術件数が増加し、整形外科は常勤医師が2名減となり2名体制となったが、前年度を上回る実績となった。

胸部心臓血管外科の心臓手術は7月から実施し、心臓手術15件、血管手術29件の実績となった。

手術実績

診療科名	平成 21 年度	平成 20 年度	増減
循環器内科	2※	0	+2
消化器外科	272	257	+15
胸部心臓血管外科	86	90	-4
形成外科	26	85	-59
整形外科	288	285	+3
脳神経外科	38	18	+20
泌尿器科	3	0	+3
産婦人科	13	0	+13
眼科	419	395	+24
耳鼻いんこう科	6	0	+6
歯科口腔外科	11	24	-13
皮膚科	29	0	+29
合 計	1,193	1,154	+39
うち全麻件数	416	439	-23
全麻率	34.9 %	38.0 %	-3.1 ポイント

※ペースメーカー埋込み件数

g. リハビリテーション部門の拡充

理学療法士1名、作業療法士1名を増員し15名体制とした。訪問リハビリについては1名体制から3名体制に強化した。

h. 医師の事務負担の軽減

医師の事務作業を補助する職員（派遣）を、4月から内科外来エリアに1名、病棟部門に1名それぞれ配置した。

これまで医師が診療業務以外に行っていた診断書、診療録、主治医意見書等の患者基本情報の記入や病棟での伝票整理などを事務員が行うことにより、医師の業務負担が大幅に軽減された。

i. 職員研修の実施

職員のスキルアップのため、研修医、看護師、コメディカルスタッフ等の職員が金沢

医科大学病院で研修を受けた。また、医療安全対策や感染防止対策などの院内研修会において、金沢医科大学から講師を招聘するなど、いわゆる本院と分院との相互研修における協力体制が推進された。

j. へき地巡回診療

「へき地医療拠点病院」として、氷見市内12地区（うち補助対象地区9ヶ所）でへき地巡回診療を行っている。今年度の患者延べ数は1,404人で前年度より68人（－4.6%）減少した。高齢化が進み病状の悪化による入院や死亡のため、へき地での患者数は年々減少している。

3) 医療経費の削減

a. 医療材料費

医療材料費（臨床医薬品、検査用試薬、血液、感光材料、医療材料、医療検査）は、前年度より2千万円の減少となった。

内容的には、心臓手術に対する検査及び手術材料が増加したが、価格交渉及び在庫品目・数量の絞り込みを行ったことにより減少した。

また、医療材料のSPDシステム廃止により業者間の価格競争が発生し、価格交渉を優位に行う事ができたことも減少した要因の一つとなった。

b. 医療間接費

医療機器保守業務、滅菌業務、患者給食、清掃業務等の委託費は、DPC請求に係るコーディング業務や新型インフルエンザ受付業務など新規の業務委託で若干の増加となった。

4) 経営管理体制の強化

a. 「院長補佐」制度の導入

病院長の業務を補佐するため、平成21年度から院長補佐制度を導入した。内科系1名、外科系1名の医師を院長補佐とし、医師の定着や診療体制の充実などの重点課題を推進した。

b. 広報活動の推進（病院フォーラムの開催）

金沢医科大学が指定管理者となり2年目を迎えたことを機に、平成21年7月25日（土）氷見市民会館において「金沢医科大学氷見市民病院フォーラム2009」を開催した。教職員、関連病院、近隣住民ら約350人が出席した。

フォーラムでは「ここまで来た金沢医科大学氷見市民病院」をテーマとして、総務省による公立病院改革と財政措置の基調講演、当院の最新医療、地域医療の現状と将来に関するパネルディスカッションが行われた。

5) 新病院建設

新病院の基本計画策定のため、職員で構成する5部門のプロジェクトチームを発足させた。

4ヶ月に及ぶ各部門との精力的なヒアリングを経て、基本設計及び実施設計を策定した。新病院の敷地造成工事は10月に開始された。平成22年3月には氷見市による建設業者選定の入札が執行され、（株）フジタに決定した。

《新病院の概要》

建設地	氷見市鞍川1130番地
建築構造	鉄骨造地上6階建て
敷地面積	約32,000㎡
延床面積	約21,444㎡
総病床数	250床（一般病床201床うち結核5床含む、回復期リハビリ病床49床）



新 氷見市民病院完成予想パース

各階構成表

6階	会議室 多目的ホール	りんごステーション 訪問看護ステーション	
5階	一般病棟(50床) 一般病棟(45床)(結核5床)		
4階	一般病棟(51床) 回復期リハビリ病棟(49床)		
3階	一般病棟(44床) 集中治療室(6床)	手術室(5室)	
2階	医局・管理部門 レストラン 病理部	中央材料部 中央臨床検査部	外来 血液浄化センター(20床)
1階	栄養部・厨房 薬剤部 市役所窓口 売店 機械室	医事部門 リハビリテーション部 中央放射線部 生理機能検査室 内視鏡センター	外来 救急センター 健康管理センター 中央処置室 化学療法室

6) 医療機器整備

a 医療機器の購入

大学購入分は、25件で3千6百万円となった。また、氷見市民病院の管理運営に関する基本協定第31条の指定管理者負担金に該当する氷見市購入分の医療機器は、8件で7千5百万円となった。

b 医療機器の稼働実績

平成20年度及び21年度に購入した医療機器の稼働状況は、次のとおり。

医療機器の稼働実績

《平成 20 年度整備機器》

部 署	品 名	規 格	数量	件数計
内分泌内科	体成分分析装置	InbodyS20	1	27
眼 科	3 次元眼底像撮影装置	3DOCT-100	1	363
中 検	自動グリコヘモグロビン分析計	HLC-723G8	1	2,411

《平成 21 年度整備機器》

部 署	品 名	規 格	数量	件数計
消化器外科	超音波診断装置	EUB-7500	1	819
皮膚科	赤外線照射装置	UV801KL-TL01	1	300
皮膚科	近赤外線治療装置	HA-2200TP1	1	370
眼 科	眼内レーザー光凝固装置	GYC-1000	1	49

7) 経営指針

平成 21 年度の経営指標は次のとおり。

経営指標

指標	H21年度目標	H21年度実績	目標との差	H20年度実績
許可病床数(床)	368	368	—	368
稼働病床数(床)	204	210	6.0	204
平均在院日数(床)	18.5	17.6	-0.9	19.2
病床利用率「稼働」(%)	82.4	72.9	-9.5	77.4
入院患者数／日(人)	168.0	153.1	-14.9	158.1
外来患者数／日(人)	490.0	506.6	16.6	492.0
患者紹介率(%)	30.0	19.4	-10.6	19.3
院外処方率(%)	60.0	67.3	7.3	54.5
新入院患者数／日(人)	8.6	8.3	-0.3	7.8
新患者数／日(人)	7.0	5.3	-1.7	6.6
入院単価／日(円)	37,500	40,310	2,810	37,445
外来単価／日(円)	12,100	11,191	-909	11,925
入院実績額(千円)	2,299,500	2,253,393	-46,107	2,160,804
外来実績額(千円)	1,725,339	1,649,927	-75,412	1,706,898
合計実績額(千円)	4,024,839	3,903,320	-121,519	3,867,702

8) 氷見市民病院教職員数

【教職員数合計】

(平成 21 年 5 月 1 日現在 単位：人)

年 度	教員数		職員数		医員・臨床研修医		計	
	男	女	男	女	男	女	男	女
平成 20 年度 (計)	21	4	38	227	2	0	61	231
	25		265		2		292	
平成 21 年度 (計)	23	4	44	237	3	1	70	242
	27		281		4		312	

医学部教員数内訳

年 度	教 授		准教授		講 師		助 教		助手・研究医(員)		計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
平成 20 年度 (計)	4	1	7	1	5	1	5	1	0	0	21	4
	5		8		6		6		0		25	
平成 21 年度 (計)	6	1	6	1	6	1	5	1	0	0	23	4
	7		7		7		6		0		27	

職員数内訳

年 度	事務系		技術技能系		医療系		その他		計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
平成 20 年度 (計)	12	9	1	0	24	165	1	53	38	227
	21		1		189		54		265	
平成 21 年度 (計)	13	11	1	3	27	170	3	53	44	237
	24		4		197		56		281	

※事務系…法人・学事・病院事務部・他病院の事務員

※技術技能系…技術職員・技能職員

※医療系…看護系職員及び医療技術系職員（放射線技師・検査技師・薬剤師・栄養士等）

※教務系…研究補助員等

※その他…臨時・パート・補助員等

医員・臨床研修医数内訳

年 度	医 員		臨床研修医		計	
	男	女	男	女	男	女
平成 20 年度 (計)	0	0	2	0	2	0
	0		2		2	
平成 21 年度 (計)	0	1	3	0	3	1
	1		3		4	

Ⅲ 財務の概要

1. 平成21年度決算の概要

平成21年度は、前年度から引き続き医師及び看護師の確保を図り、勤務環境の改善に努めた。また、臨床研修医への奨学金制度の創設、医学部特別奨学金貸与制度の拡充、高度先進研究機器の整備などの事業を実施した。同時に、グランドデザイン事業（大学施設再整備計画）に備えるための資金確保についても予定額の積立てを行った。

収入面では、医療収入は前年度より2.8%増の175億円を確保し、学納金などで増収になったが、補助金及び資産運用収入が減少したことにより、帰属収入合計は前年度比8千5百万円減の250億円となった。

また、支出面では、人件費が増加したことにより、消費支出合計（有価証券評価差額を除く）は前年度を2億9百万円上回る251億7千9百万円となった。この結果、帰属収入から消費支出（同前）を差引いた収支差額は1億6千4百万円の支出超過という結果になった。

（1）消費収支計算書（表1参照）

《帰属収入の部》

学生生徒等納付金

平成20年度決算に対し（以下、前年比という。）2億9百万円増の48億3百万円となった。学生数は、医学部生659名（前年比1名増）、大学院生69名（同3名増）、看護学部生192名（同66名増）の合計920名（同70名増）。

手数料

平成22年度医学部入試に係る入学志願者2,238名及び看護学部の入学生志願者165名を含む入学検定料ほかで、1億3千9百万円となった。

寄付金

寄付金総額は、ほぼ前年同額の5億5千9百万円となった。

補助金

補助金総額は、前年比5億8千7百万円減の14億4千9百万円となった。

うち、私立大学等経常費補助金は2千3百万円増の11億3百万円となった。また、その他の補助金で減少しているのは、前年度に病院別館改修及び看護師宿舎建設に係る補助金約5億円があったため。

文部科学省研究装置・設備補助金は、超高速全身撮影型2管球搭載CT装置、ハイスループット組織画像解析システムなど7件が採択され、2億1百万円が交付された。

資産運用収入

資産運用収入は、受取利息・配当金が1億2千1百万円、施設設備利用料が9千8百万円の合計2億1千9百万円となった。そのうち受取利息・配当金は、円高の影響で外国債券の利金が1億9千6百万円減少した。

医療収入

医療収入総額は、前年比4億8千万円増の175億円となった。

入院収入は、病床利用率が84.0%と前年比2.7ポイント増、診療単価が前年比1.7%の増加となったことなどにより、前年比1億8千9百万円増の130億2千万円となった。

一方、外来収入は、外来延患者数が0.5%増加し、診療単価が前年比6.5%の増加となったことなどにより、前年比2億9千1百万円増の44億8千万円となった。

なお、医療収入の帰属収入に占める割合は70.0%（前年度67.2%）となった。

以上により、平成21年度の帰属収入の部合計は、前年比8千5百万円減の250億1千5百万円となった。

《消費支出の部》

人件費

人件費総額は、前年比3億6千2百万円増となる119億3千3百万円となった。うち、教員人件費は、前年比9千万円増の36億6千2百万円、職員人件費は平成22年度問題対応のための看護師確保等により、前年比2億6千8百万円増の75億円、役員報酬はほぼ前年同額の9千万円、退職給与引当金繰入額及び退職金はほぼ前年同額の6億8千1百万円となり、また、退職金支出は、定年及び早期退職制度による退職等を含め、108名に5億8千7百万円を支出した。

なお、人件費の帰属収入に占める割合は47.7%（前年度46.1%）となった。

教育研究経費

前年比4千3百万円増の15億9千5百万円となり、引き続き教育研究の充実を図った。

医療経費

前年比6千1百万円減の85億1千6百万円となった。薬品費が2億3百万円増加し、医療材料費が6千5百万円増加したが、その他の医療経費が3億2千9百万円減少した。これは、光熱水費が約1億1千万円の減、委託費が約1億7千万円の減となったため。

なお、医療経費の医療収入に占める割合は48.7%（前年度50.4%）、また、帰属収入に占める割合は34.0%（同34.2%）となった。

減価償却額及び資産処分差額等

減価償却額及び資産処分差額の合計額は、前年比6千9百万円減の26億4千3百万円となった。

以上により、平成21年度の消費支出の部合計（有価証券評価差額を除く）は、前年比2億9百万円増の251億7千9百万円となった。

この結果、帰属収入の部合計250億1千5百万円から、消費支出の部の合計（同前）251億7千9百万円を差引いた収支差額は、前年比2億9千4百万円減となる1億6千4百万円の支出超過となった。

なお、有価証券評価差額については、平成20年9月のリーマンショック以来、世界経済、金融機関等の混乱が鎮静化しつつあり、その影響から、本年度は2億6千万円にとどまった。

この有価証券評価差額を含めた消費収支差額は、4億2千4百万円の支出超過となる。

(2) 資金収支計算書(表2参照)

《資金収入の部》

借入金等収入

期中の運転資金として銀行から10億円を借入れた。

また、教育振興資金(学校債)を募集し、3億5千万円の資金調達を行った。

前受金収入

平成22年度学生生徒納付金等の前受金は、前年比2億7百万円減の34億9千1百万円となった。なお、医学部学納金の前後期分割納入は3年目になる。

その他の収入

前年比6億4千5百万円減の40億3千3百万円となった。

《資金支出の部》

借入金等返済支出

期中に借入れた短期借入金10億円を返済した。

また、学校債の定期償還及び繰上償還等で、5億6千1百万円の償還を実施した。

施設関係支出

特別高圧2回線化受電工事に2億5千8百万円、MR-CT3撮影室改修工事に6千5百万円、病児保育室増築工事に3千8百万円、超高速全身撮影型2管球搭載CT装置導入工事に4千4百万円ほかで、合計5億3千7百万円を支出した。

設備関係支出

超高速全身撮影型2管球搭載CT装置2億5千4百万円(うち、補助金交付額1億4千9百万円)、ハイスループット組織画像解析システム2千7百万円(うち、補助金交付額1千8百万円)、走査電子顕微鏡2千万円(うち、補助金交付額1千3百万円)、インキュベータ蛍光顕微鏡2千万円(うち、補助金交付額1千3百万円)、消化器内視鏡シミュレータ1千5百万円(うち、補助金交付額7百万円)、高頻度磁気刺激装置9百万円(うち、補助金交付額6百万円)ほかで、合計8億3千2百万円を支出した。

資産運用支出

グラントデザイン事業に対する財源を確保するため施設拡充引当特定資産に10億円、臨床研修奨学事業引当特定資産に5千万円の合計10億5千万円を計画どおり積立てた。

また、金沢医科大学氷見市民病院への元入金として2億5百万円を繰り入れた。

以上の資金収支計算の結果、平成21年度の次年度繰越支払資金(手持運転資金)は前年比1億2千8百万円減となる41億2千8百万円となった。

(3) 貸借対照表 (表3 参照)

《資産の部》

資産総額は、前年比7億8千万円減の55億5千8百万円となった。

これは、建物ほかの減価償却、減価償却引当特定資産の評価換え及び未収入金等の減少によるもの。

固定資産

固定資産は、前年比1億1千5百万円減の47億6千3百万円となった。

建物及び構築物が9億5千2百万円減少しているのは、特別高圧2回線化受電工事などの取得高が除却額及び減価償却額を下回ったため。

教育研究用機器備品が1億8千1百万円減少しているのは、研究用機器や医療用機器の取得高が除却額及び減価償却額を下回ったため。

収益事業元入金については、金沢医科大学氷見市民病院の運転資金として新たに2億5百万円を繰り入れた。

長期貸付金は医学部生、看護学部生及び臨床研修医への奨学貸付金で、3億円となった。

退職給与引当特定資産は、前年同額の61億3千8百万円で、これは、退職給与引当金期末残高の80.7%に相当する。

減価償却引当特定資産は、仕組債の評価換えにより2億6千万円減の44億8千9百万円となった。

施設拡充引当特定資産は、10億円をグランドデザイン事業に積立てた。

臨床研修奨学事業引当特定資産を新規に設定し、5千万円を繰り入れた。

流動資産

流動資産は、前年比6億6千5百万円減の75億1千9百万円となった。

うち、現金預金は1億2千8百万円減の41億2千8百万円となった。

また、未収入金が5億2千6百万円減少しているのは、補助金の未収入金が減少したことなどによる。

《負債の部》

負債総額は、前年比3億5千6百万円減の17億8千3百万円となった。

固定負債

退職給与引当金は、取崩しと繰入れを行った結果、前年比9千4百万円増の7億6千1百万円となった。

流動負債

前受金が減少したのは、平成19年度から医学部新入生の学納金が前後期分割納入となったことによる。

《正味財産の部》

正味財産は、前年比4億2千4百万円減の37億3千5百万円となった。この減少額は、消費収支計算書(表1)の差引消費収支差額に一致する。

資産総額に対する正味財産の割合は67.7%となり、前年度より0.2ポイント増加した。

(表1) 消費収支計算書

(▼は比較上の減少を表す) (単位:百万円)

帰属収入の部	① 21年度 決 算	② 20年度 決 算	差 異 ①－②	③ 21年度 予 算	差 異 ①－③	21年度決算 帰属収入比
学生生徒等納付金	4,803	4,594	209	4,761	42	19.2%
手数料	139	157	▼18	157	▼18	
寄付金	559	564	▼5	730	▼171	2.2%
特別寄付金(寄附講座等)	12	19	▼7	0	12	
一般寄付金入学時	190	212	▼22	300	▼110	
一般寄付金その他	351	300	51	420	▼69	
現物寄付金	6	33	▼27	10	▼4	
補助金	1,449	2,036	▼587	1,423	26	5.8%
経常費補助金	1,103	1,080	23	1,080	23	
文科省設備補助金	201	338	▼137	217	▼16	
臨床研修費補助金	54	49	5	53	1	
その他の補助金	91	569	▼478	73	18	
資産運用収入	219	389	▼170	353	▼134	0.9%
受取利息配当金	121	317	▼196	220	▼99	
施設設備利用料	98	72	26	133	▼35	
事業収入	232	205	27	269	▼37	
医療収入	17,500	17,020	480	17,445	55	70.0%
入院収入	13,020	12,831	189	13,014	6	(20決算比 2.8%増)
外来収入	4,480	4,189	291	4,431	49	
雑収入	114	135	▼21	60	54	
帰属収入の部合計	25,015	25,100	▼85	25,198	▼183	100.0%
消費支出の部	① 21年度 決 算	② 20年度 決 算	差 異 ①－②	③ 21年度 予 算	差 異 ①－③	21年度決算 帰属収入比
人件費	11,933	11,571	362	11,740	193	47.7%
教員人件費	3,662	3,572	90	3,600	62	(20年度決 算 46.1%)
職員人件費	7,500	7,232	268	7,350	150	
役員報酬	90	91	▼1	90	0	
退職給与引当金繰入額 及び退職金	681	676	5	700	▼19	
教育研究経費	1,595	1,552	43	1,430	165	6.4%
医療経費	8,516	8,577	▼61	8,653	▼137	34.0%
薬品費	3,497	3,294	203	3,392	105	(H21 医療収 入比 48.7%)
医療材料費	2,456	2,391	65	2,525	▼69	
給食材料費	243	255	▼12	230	13	(H20 医療収 入比 50.4%)
医療検査費	127	115	12	114	13	
その他の医療経費	2,193	2,522	▼329	2,392	▼199	
管理経費	490	557	▼67	452	38	2.0%
借入金等利息	2	1	1	5	▼3	
減価償却・資産処分差額	2,643	2,712	▼69	2,660	▼17	10.6%
予備費	0	0	0	50	▼50	
消費支出の部合計	25,179	24,970	209	24,990	189	100.7%
収支差額	△164	130	▼294	208	▼372	-0.7%
有価証券評価差額	260	3,351	▼3,091	0	260	
差引消費収支差額	△424	△3,221	2,797	208	▼632	

(表2) 資金収支計算書

(単位:百万円)

資金収入の部	① 21年度 決 算	② 20年度 決 算	差 異 ①－②	③ 21年度 予 算	差 異 ①－③
資金を伴う帰属収入	25,009	25,067	▼58	25,188	▼179
帰属収入の部合計	25,015	25,100	▼85	25,198	▼183
非資金収入除外	△6	△33	27	△10	4
資産売却収入	0	0	0	0	0
借入金等収入	1,350	1,318	32	1,500	▼150
短期借入金収入	1,000	1,000	0	1,000	0
学校債収入	350	318	32	500	▼150
前受金収入	3,491	3,698	▼207	3,342	149
その他の収入	4,033	4,678	▼645	4,018	15
資金収入調整勘定	△6,910	△7,663	753	△6,880	▼30
期末未収入金	△3,212	△3,734	522	△3,182	▼30
前期末前受金	△3,698	△3,929	231	△3,698	0
資金収入の部合計	26,973	27,098	▼125	27,168	▼195
資金支出の部	① 21年度 決 算	② 20年度 決 算	差 異 ①－②	③ 21年度 予 算	差 異 ①－③
資金を伴う消費支出	22,410	22,086	324	22,330	80
消費支出の部合計	25,179	24,970	209	24,990	189
非資金支出除外	△2,769	△2,884	115	△2,660	▼109
借入金等返済支出	1,561	1,531	30	1,500	61
借入金返済支出	1,000	1,000	0	1,000	0
学校債返済支出	561	531	30	500	61
施設関係支出	537	3,067	▼2,530	564	▼27
設備関係支出	832	1,115	▼283	1,003	▼171
資産運用支出	1,255	1,033	222	1,050	205
その他の支出	2,930	2,716	214	2,907	23
資金支出調整勘定	△2,424	△2,449	25	△2,400	▼24
期末未払金	△2,424	△2,433	9	△2,400	▼24
前期末前払金	0	△16	16	0	0
資金支出の部合計	27,101	29,099	▼1,998	26,954	147
差引資金収支差額	△128	△2,001	1,873	214	▼342
前年度繰越支払資金	4,256	6,257	▼2,001	4,256	0
次年度繰越支払資金	4,128	4,256	▼128	4,470	▼342

(△は計算書式上のマイナス値) (▼は比較上の減少を表す)

(表3) 貸借対照表

(単位:百万円)

資 産 の 部	① 21年度 決 算	① 20年度 決 算	増 減 ①－②	構成比率	
				①21年度	②20年度
固定資産	47,639	47,754	▼115	86.4%	85.4%
有形固定資産	34,101	35,359	▼1,258	61.8%	63.2%
土地	3,206	3,206	0		
建物	23,088	23,992	▼904		
構築物	711	759	▼48		
教育研究用機器備品	5,778	5,959	▼181		
その他の機器備品	57	60	▼3		
図書	1,230	1,225	5		
車輛	31	35	▼4		
建設仮勘定	0	123	▼123		
その他の固定資産	13,538	12,395	1,143	24.5%	22.2%
電話加入権、施設利用権	12	12	0		
有価証券、出資金他	11	11	0		
収益事業元入金	638	433	205		
長期貸付金	300	152	148		
退職給与引当特定資産	6,138	6,138	0		
減価償却引当特定資産	4,489	4,749	▼260		
施設拡充引当特定資産	1,000	0	1,000		
海外交流引当特定資産	500	500	0		
医学部奨学事業特定資産	400	400	0		
臨床研修奨学事業特定資産	50	0	50		
流動資産	7,519	8,184	▼665	13.6%	14.6%
現金預金	4,128	4,256	▼128		
未収入金	3,202	3,728	▼526		
貯蔵品	168	199	▼31		
前払金、仮払金	21	1	20		
資 産 の 部 合 計	55,158	55,938	▼780	100.0%	100.0%
負 債 の 部	① 21年度 決 算	① 20年度 決 算	増 減 ①－②	構成比率	
				①21年度	②20年度
固定負債	11,218	11,322	▼104	20.3%	20.2%
学校債	3,605	3,803	▼198		
退職給与引当金	7,613	7,519	94		
流動負債	6,585	6,837	▼252	11.9%	12.2%
学校債	377	390	▼13		
未払金	2,424	2,433	▼9		
前受金	3,491	3,698	▼207		
預り金、仮受金	293	316	▼23		
負 債 の 部 合 計	17,803	18,159	▼356	32.3%	32.5%
正味財産の部 合計	37,355	37,779	▼424	67.7%	67.5%
負債及び正味財産の部 合計	55,158	55,938	▼780	100.0%	100.0%

(▼は比較上の減少を表す)

2. 最近5ヶ年の財務状況

(1) 消費収支の状況

(単位:百万円)

科 目		17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
収入の部	学生生徒等納付金	4,368	4,412	4,583	4,593	4,803
	手数料	161	157	158	157	139
	寄付金	928	851	735	564	559
	補助金収入	1,247	1,529	1,429	2,036	1,449
	資産運用収入	396	842	970	389	219
	事業収入	201	179	207	205	232
	医療収入	16,676	16,713	16,995	17,020	17,500
	雑収入	86	216	122	135	114
帰属収入合計		24,063	24,899	25,199	25,099	25,015
支出の部	人件費	11,188	11,324	11,455	11,571	11,933
	教育研究経費	2,166	2,002	2,255	2,296	2,356
	医療経費	9,476	9,697	9,868	10,250	10,280
	管理経費	545	662	605	621	593
	借入金等利息	0	1	0	0	2
	資産処分差額	95	193	10	3,576	264
	徴収不能額等	30	50	17	6	11
	消費支出の部合計	23,500	23,929	24,210	28,320	25,439
収 支 差 額		563	970	989	△ 3,221	△ 424

(2) 資金収支の状況

(単位:百万円)

科 目		17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
収入の部	学生生徒等納付金収入	4,368	4,412	4,583	4,593	4,803
	手数料収入	161	157	158	157	139
	寄付金収入	918	807	720	531	553
	補助金収入	1,247	1,529	1,429	2,036	1,449
	資産運用収入	396	842	970	389	219
	事業収入	201	179	207	205	232
	医療収入	16,676	16,713	16,995	17,020	17,500
	雑収入	86	216	122	135	114
	借入金等収入	561	861	510	1,318	1,350
	前受金収入	4,255	4,353	3,929	3,698	3,491
支出の部	その他の収入	3,150	5,766	3,751	4,679	4,033
	資金収入調整勘定	△ 7,113	△ 7,774	△ 7,726	△ 7,663	△ 6,910
	合計	24,906	28,061	25,648	27,098	26,973
	人件費支出	10,980	11,445	11,441	11,389	11,839
	教育研究経費支出	1,398	1,321	1,498	1,552	1,595
	医療経費支出	7,990	8,213	8,201	8,587	8,485
	管理経費支出	471	600	535	557	490
	借入金等利息支出	0	1	0	0	2
	借入金等返済支出	592	747	366	1,532	1,561
	施設関係支出	1,512	2,935	242	3,067	537
その他の支出	設備関係支出	617	1,646	1,371	1,115	832
	資産運用支出	650	650	950	1,033	1,255
	その他の支出	3,087	2,625	3,007	2,717	2,929
	資金支出調整勘定	△ 2,251	△ 2,674	△ 2,382	△ 2,450	△ 2,424
	合計	25,046	27,509	25,229	29,099	27,101
差引資金収支差額		△ 140	552	419	△ 2,001	△ 128
前年度繰越支払資金		5,426	5,286	5,838	6,257	4,256
次年度繰越支払資金		5,286	5,838	6,257	4,256	4,128

(3) 貸借対照表

(単位:百万円)

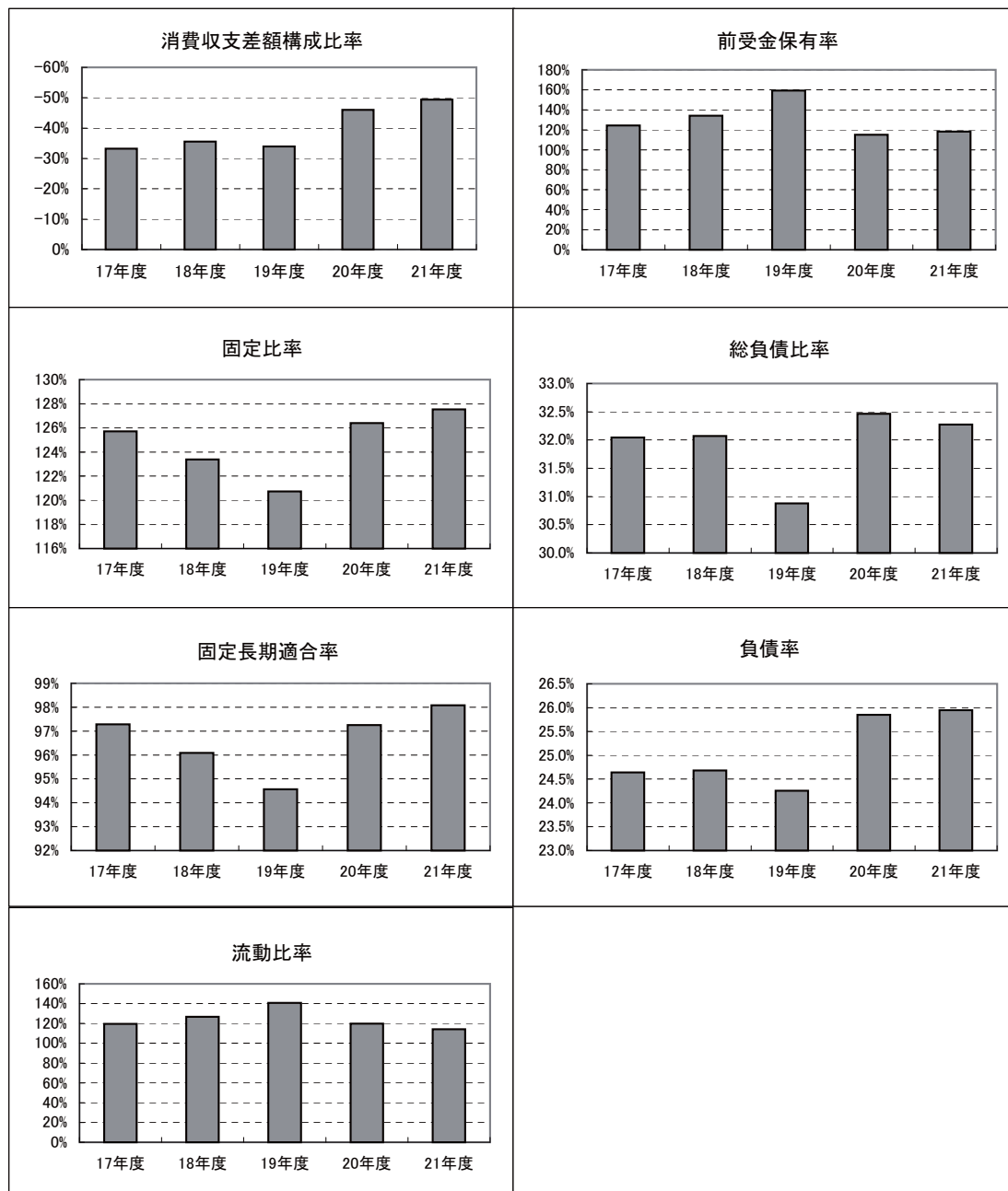
資 産 の 部					
科 目	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
固 定 資 産	49,077	49,369	49,497	47,754	47,639
土地	3,098	3,098	3,098	3,206	3,206
建物	21,805	24,066	22,863	23,992	23,088
構築物	820	826	760	759	711
教育研究用機器備品	4,675	5,428	5,820	5,959	5,778
その他の機器備品	70	68	65	60	57
図書	1,196	1,208	1,217	1,225	1,230
車輛	27	20	28	35	31
建設仮勘定	823	0	0	123	0
退職給与引当特定資産	4,638	5,138	5,638	6,138	6,138
減価償却引当特定資産	9,200	8,100	8,100	4,749	4,489
施設拡充引当特定資産	2,500	1,000	1,000	0	1,000
医学教育海外交流引当特定資産	100	150	500	500	500
医学部奨学事業引当特定資産	100	200	300	400	400
臨床研修奨学事業引当特定資産	0	0	0	0	50
その他の固定資産	25	67	108	608	961
流 動 資 産	8,373	9,531	9,819	8,183	7,519
現金預金	5,286	5,838	6,257	4,256	4,128
未収入金	2,868	3,471	3,357	3,728	3,202
その他の流動資産	219	222	205	199	189
資 産 の 部 合 計	57,450	58,900	59,316	55,937	55,158
負 債 の 部					
科 目	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
固 定 負 債	11,408	11,366	11,344	11,322	11,218
学校債	3,964	4,043	4,007	3,803	3,605
退職給与引当金	7,444	7,323	7,337	7,519	7,613
流 動 負 債	7,002	7,523	6,972	6,836	6,585
学校債	185	220	400	390	377
未払金	2,253	2,661	2,363	2,433	2,424
前受金	4,255	4,353	3,929	3,698	3,491
預り金、仮受金	309	289	280	315	293
負 債 の 部 合 計	18,410	18,889	18,316	18,158	17,803
正 味 財 産 の 部 合 計	39,040	40,011	41,000	37,779	37,355
負債及び正味財産の部合計	57,450	58,900	59,316	55,937	55,158

(4) 財務比率経年比較表

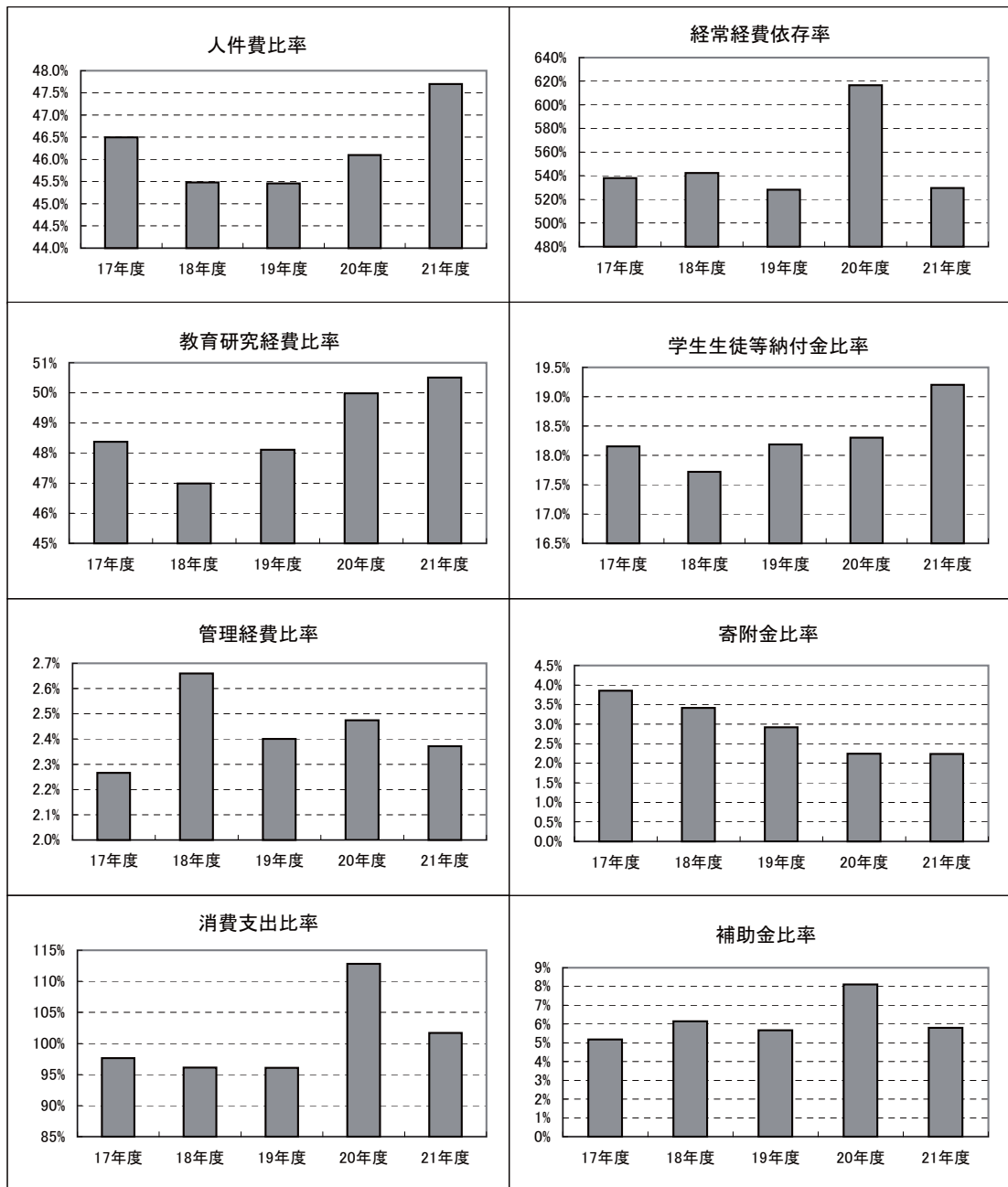
分類	比 率	算式 (×100)	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
貸 借 対 照 表	消費収支差額構成比率	$\frac{\text{消費収支差額}}{\text{総 資 金}}$	-33.2%	-35.6%	-33.9%	-46.0%	-49.4%
	固 定 比 率	$\frac{\text{固 定 資 産}}{\text{自 己 資 金}}$	125.7%	123.4%	120.7%	126.4%	127.5%
	固 定 長 期 適 合 率	$\frac{\text{固 定 資 産}}{\text{自己資金+固定負債}}$	97.3%	96.1%	94.6%	97.3%	98.1%
	流 動 比 率	$\frac{\text{流 動 資 産}}{\text{流 動 負 債}}$	119.6%	126.7%	140.8%	119.7%	114.2%
	前 受 金 保 有 率	$\frac{\text{現 金 預 金}}{\text{前 受 金}}$	124.2%	134.1%	159.2%	115.1%	118.2%
	総 負 債 比 率	$\frac{\text{総 負 債}}{\text{総 資 金}}$	32.0%	32.1%	30.9%	32.5%	32.3%
	負 債 率	$\frac{\text{総負債-前受金}}{\text{総 資 産}}$	24.6%	24.7%	24.3%	25.9%	25.9%
消 費 収 支 計 算 書	人 件 費 比 率	$\frac{\text{人 件 費}}{\text{帰 属 収 入}}$	46.5%	45.5%	45.5%	46.1%	47.7%
	教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{帰 属 収 入}}$	48.4%	47.0%	48.1%	50.0%	50.5%
	管 理 経 費 比 率	$\frac{\text{管 理 経 費}}{\text{帰 属 収 入}}$	2.3%	2.7%	2.4%	2.5%	2.4%
	消 費 支 出 比 率	$\frac{\text{消 費 支 出}}{\text{帰 属 収 入}}$	97.7%	96.1%	96.1%	112.8%	101.7%
	【経常経費依存率】	$\frac{\text{消 費 支 出}}{\text{学生生徒等納付金}}$	538.0%	542.4%	528.2%	616.5%	529.6%
	学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{帰 属 収 入}}$	18.2%	17.7%	18.2%	18.3%	19.2%
	寄 付 金 比 率	$\frac{\text{寄 付 金}}{\text{帰 属 収 入}}$	3.9%	3.4%	2.9%	2.2%	2.2%
	補 助 金 比 率	$\frac{\text{補 助 金}}{\text{帰 属 収 入}}$	5.2%	6.1%	5.7%	8.1%	5.8%

* この表の年度別推移を次の2ページにグラフ化した。

主な財務比率の経年比較(貸借対照表関係)



主な財務比率の経年比較(消費収支計算書関係)



3. 平成21年度金沢医科大学氷見市民病院決算の概要

(1) 損益計算書

医業収益39億2千1百万円に対し医業費用が43億8百万円で、差引医業収益は3億8千7百万円の支出超過となり、医業外収益3億3千6百万円を含めた当期経常利益は5千1百万円の支出超過となった。

医業収益

入院収益は22億4千1百万円、外来収益は16億5千8百万円、治験等の受託事業収益は1千5百万円、テナント家賃や駐車場賃貸料等の施設設備利用収益は7百万円となった。

医業費用

医薬品費や医療材料費等の材料費で12億8千4百万円、給与費で22億4千6百万円、検査、給食及び清掃などの委託費で4億2千4百万円、減価償却費、修繕費、損害保険料等の設備関係費で7千8百万円、消耗品費、光熱水費、旅費交通費等の経費で1億9千6百万円、氷見市への指定管理者負担金で8千万円となった。

医業外収益

寄付金収益で1千5百万円、氷見市からの交付金2億8千8百万円を含めた補助金収益は3億1千4百万円となった。

(2) 貸借対照表

資産総額は10億8千4百万円、負債総額は5億4千9百万円、純資産は5億3千5百万円となった。

流動資産

流動資産は、10億4千3百万円となった。

うち、現金預金は病院会計窓口釣銭用の小口現金で9百万円です。

未収入金は、医療未収入金6億4千4百万円、氷見市からの交付金等の補助金未収入金3億1千万円ほかで9億5千5百万円となった。

医療未収入金のうち、徴収不能引当金を4百万円繰り入れた。

貯蔵品は医薬品や医療材料等の在庫で7千7百万円となった。

固定資産

固定資産は、医療機器の購入ほかで4千1百万円となった。

流動負債

未払金は医薬品等材料費の未払いが1億9千万円、氷見市への指定管理者負担金が8千万円、退職金や3月の超過勤務手当などの未払人件費4千3百万円ほかで3億2千5百万円となった。

預り金は、給与からの住民税や所得税、共済掛金などの徴収分ほかで、4千2百万円となった。

賞与引当金は、平成22年6月に支払う予定の期末手当について、平成21年の12

月から平成２２年３月までの４ヶ月分を積算し、１億２千１百万円を計上した。

固定負債

退職給付引当金は、６千１百万円となった。

純資産

大学会計からの収益事業元入金は、２億５百万円増の６億３千８百万円となった。

(表４) 金沢医科大学氷見市民病院 損益計算書及び貸借対照表

《損益計算書》

(単位:百万円)

科 目	決 算 額 金 額	前 年 比 金 額	科 目	決 算 額 金 額	前 年 比 金 額
医業収益	3,921	37	医業費用	4,308	101
入院収益	2,241	96	材料費	1,284	▼20
外来収益	1,658	▼68	給与費	2,246	96
受託事業収益	15	11	委託費	424	28
施設設備利用収益	7	▼2	設備関係費	78	1
			経費	196	▼15
			指定管理者負担金	80	11
			医 業 利 益	△ 387	▼64
医業外収益	336	65	医業外費用	0	0
寄付金収益	15	11			
補助金収益	314	48			
雑益	7	6	経 常 利 益	△ 51	1

《貸借対照表》

(単位:百万円)

科 目	決 算 額 金 額	前 年 比 金 額	科 目	決 算 額 金 額	前 年 比 金 額
流動資産	1,043	137	流動負債	488	4
現金及び預金	9	4	未払金	325	▼11
未収入金	955	135	預り金	42	7
徴収不能引当金	△ 4	▼2	賞与引当金	121	8
貯蔵品	77	▼4	その他	0	0
その他	6	4	固定負債	61	13
固定資産	41	34	退職給付引当金	61	13
工具器具備品	41	34	負債の部合計	549	17
			純資産	535	154
			元入金	638	205
			利益剰余金	△ 103	▼51
			純資産の部合計	535	154
資 産 の 部 合 計	1,084	171	負 債 ・ 純 資 産 合 計	1,084	171

金沢医科大学
平成 21 年度 事業報告書

発行日	平成 22 年 5 月 31 日
発行者	学校法人 金沢医科大学理事長 山下 公一
企画・編集	経営企画・広報部 経理管財部
発行所	金沢医科大学出版局 〒 929-0293 石川県河北郡内灘大学 1 丁目 1 番地 電話 076-286-2211
